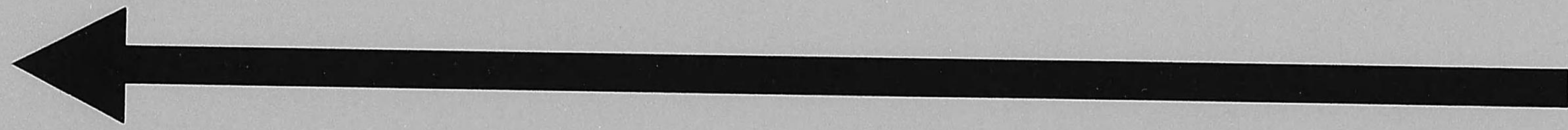
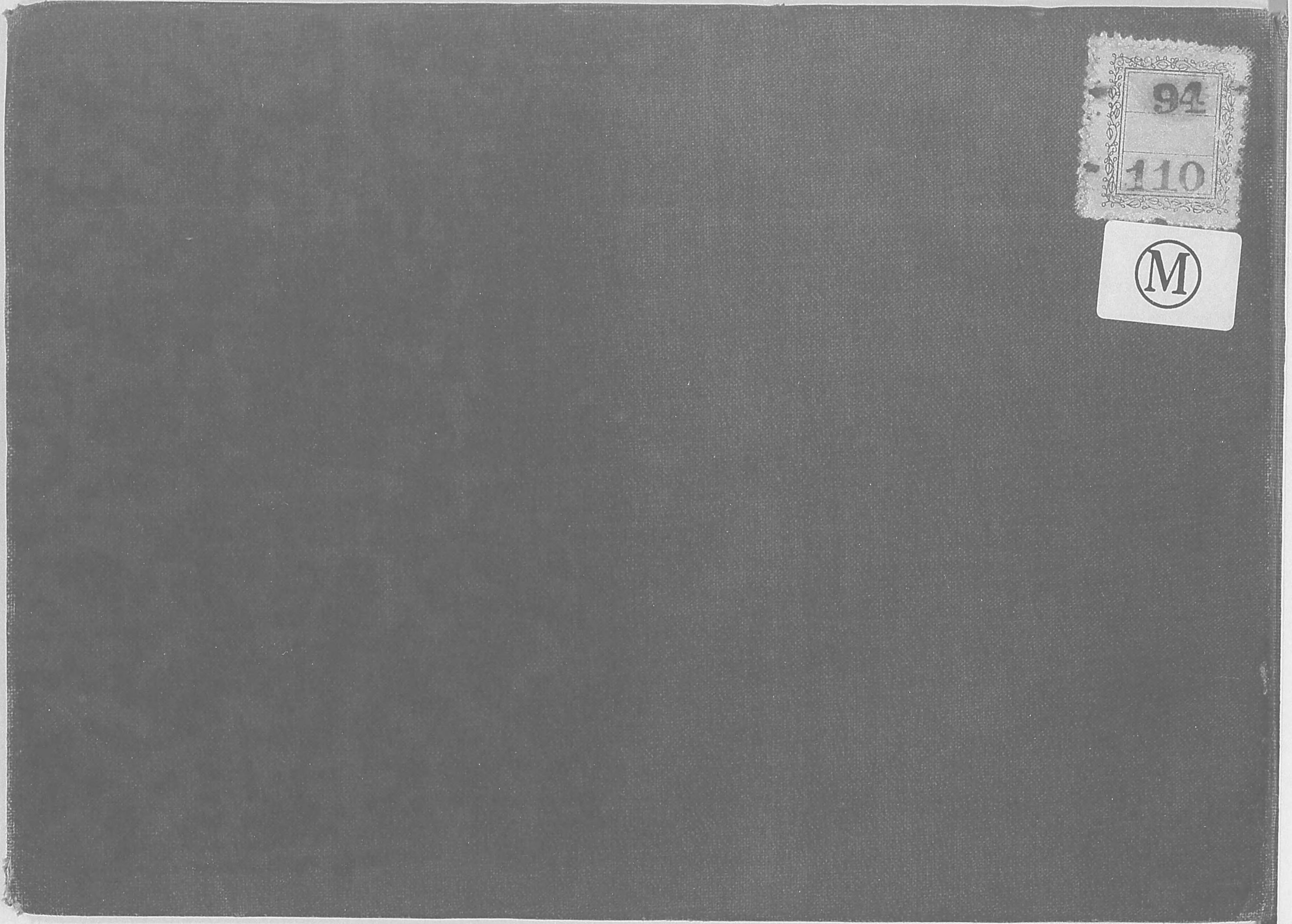


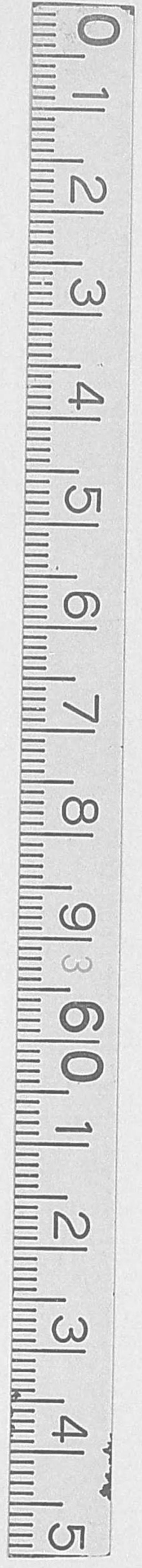
始





94
110

M



京名所寫真帖



京名所寫真帖



日本の天地を以て神境なりとなせば、京都の山川は美神の遙遊する樂園なるか。

日本の天地を以て不老不死の靈土なりと爲せば、京都の山川は靈劑を調和する仙域なるか。桓武 奠都以來滔々として一千歳、自然の手に造られたる京都の山川草木は、茲に藝術美を配合して、其極致に達し、一國美術の淵藪として羅馬の精髓を壓せんとす。

見ずや、東山一帯、翠靄糶糊の間に隱見する殿塔伽藍、嵐峽の秀麗人を痲痺せんとするの間、水に枕み山に談る高堂巨樓の何ぞ夫れ神々しき。

若し箒を曳き書を抱きて此の山水に放浪せんか、百年の痼痼、千歳の憂愁、一朝忽焉として消ぬ去り、身は靈泉に洗はれて、美の神に抱かるゝの快感なくんば已まざるべし。

されど人事の複雑にして、社會の紛糾なる、意は多年天外の風物に翔ると雖も、身を塵埃の間、簿書堆裡に葬りて、足未だ門戸を辭するに由なき者、其數又た乏しからざるべし、此等の士は身神境にありながら、神の遙遊する樂苑を知らず、生を不老の靈土に享けながら、仙劑の分配を得る能はざる薄倖兒にして、天の寄與する樂觀を空棄するものなりと云はざるべからず。

吾人の同情は如上の境遇に立てる人の爲めに注がれて涸れ果て、遂にこの一帖の巻を編するに至りぬ、若し夫れこの一卷を書架に供へて、一日倦怠して神氣愴鬱するの時、開卷一番古洛の風色に接せんか、無絃の響きは神韻縹緲として幽かに鳴り渡り、絢爛秀麗の活畫は、粉黛を凝らして其前に物語り、月餘の紛憂一時に霽れて、心中洒然として身、京都の山川を徜徉漫步するの想ひなくんばあらざるべし。

されば本書も亦人生の命數に資するの一仁術なるか、敢て一言をしるすのみ。

若し猶詳細なる京都の工藝及び名所を知らんとする者は「京みやげ工藝と名勝」を
観られよ。

明治三十六年春二月

南庭の白梅閣香を動かすの夕

編者しるす

京名所寫真帖目次

(1) 皇宮御苑

(3) 下鴨神社

(5) 比叡山延暦寺

(7) 黒谷

(9) 疏水運河

(11) 大極殿と時代祭

(13) 北垣男爵銅像

(2) 葵祭

(4) 上賀茂神社

(6) 銀閣寺

(8) 南禪寺

(10) インクライン

(12) 武徳殿

(14) 三條大橋

京名所寫真帖目次

- | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|--------|---------|------|-----|--------|------|------|
| (25) | (23) | (21) | (19) | (17) | (15) | (13) | (11) | (9) | (7) | (5) | (3) | (1) |
| 豐國廟 | 西大谷 | 東大谷 | 圓山公園 | 祇園會 | 新京極 | 北垣男爵銅像 | 大極殿と時代祭 | 疏水運河 | 黒谷 | 比叡山延曆寺 | 下鴨神社 | 皇宮御苑 |
| (24) | (22) | (20) | (18) | (16) | (14) | (12) | (10) | (8) | (6) | (4) | (2) | |
| 清水寺 | 高臺寺 | 知恩院 | 八坂神社 | 六角堂 | 三條大橋 | 武德殿 | インクライン | 南禪寺 | 銀閣寺 | 上賀茂神社 | 葵祭 | |



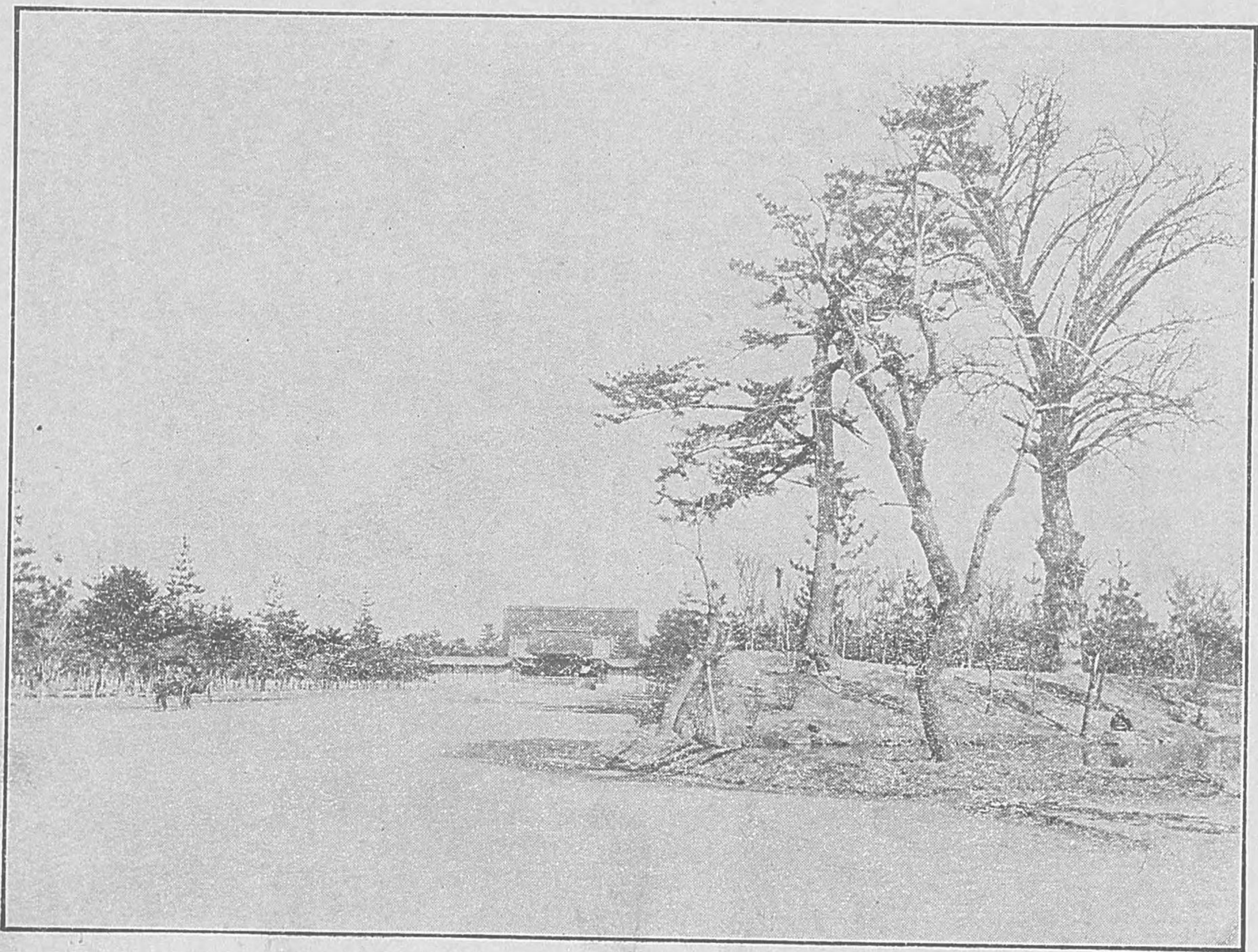
目次終

- (50) 宇治茶摘
- (48) 松尾神社
- (46) 嵐山
- (44) 高雄神護寺
- (42) 御室仁和寺
- (40) 金閣寺
- (38) 北野神社
- (36) 二條離宮
- (34) 東寺
- (32) 本派本願寺
- (30) 稻荷神社
- (28) 泉涌寺
- (26) 三十三間堂
- (27) 京都帝室博物館
- (29) 東福寺通天
- (31) 大谷派本願寺
- (33) 飛雲閣
- (35) 島原
- (37) 大德寺
- (39) 平野神社
- (41) 妙心寺
- (43) 梅尾高山寺
- (45) 清涼寺
- (47) 保津川
- (49) 平等院

(40)	金閣寺	(39)	平野神社
(42)	御室仁和寺	(41)	妙心寺
(44)	高雄神護寺	(43)	梅尾高山寺
(46)	嵐山	(45)	清涼寺
(48)	松尾神社	(47)	保津川
(50)	宇治茶摘	(49)	平等院

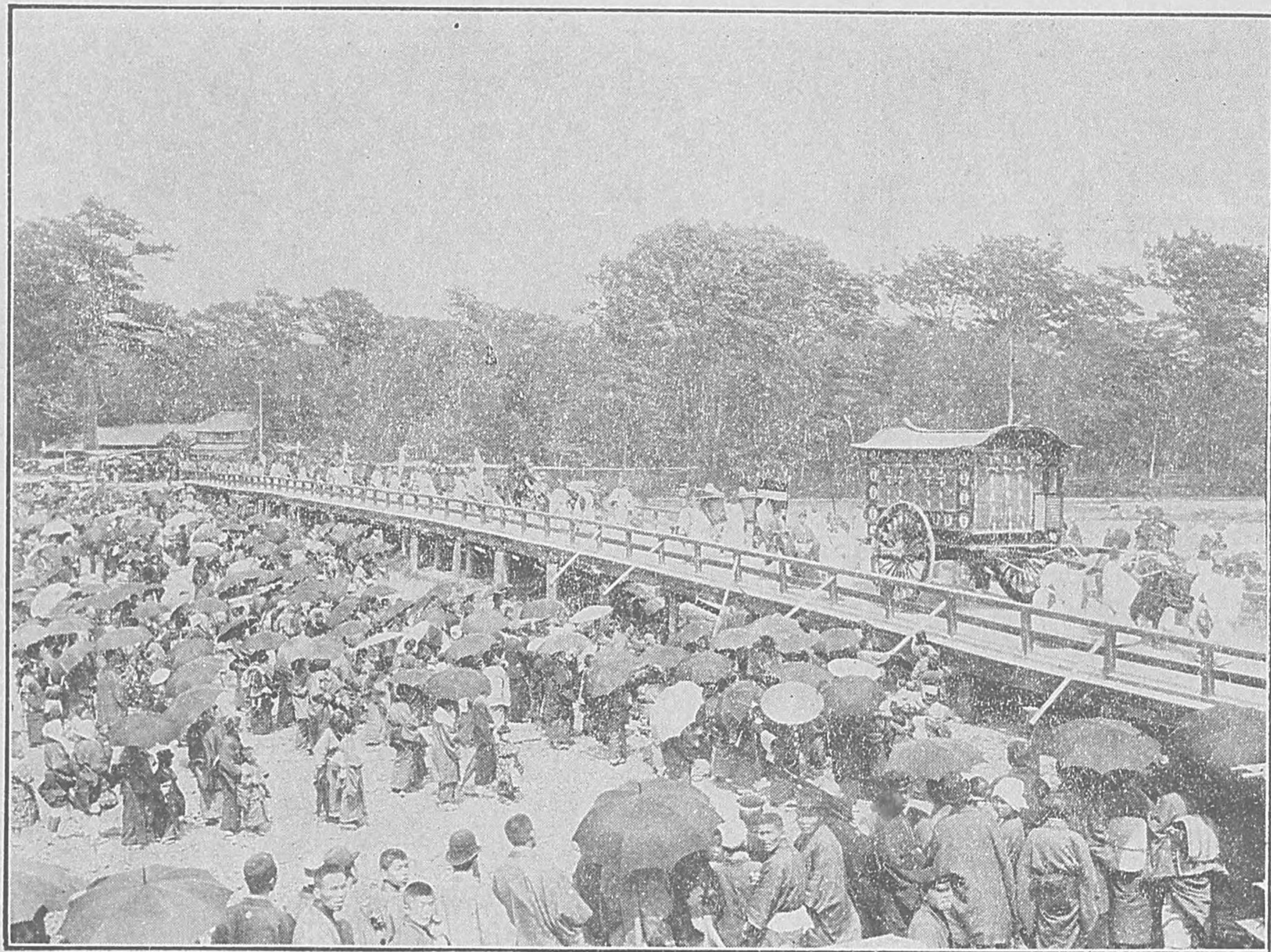
目次終

皇宮御苑



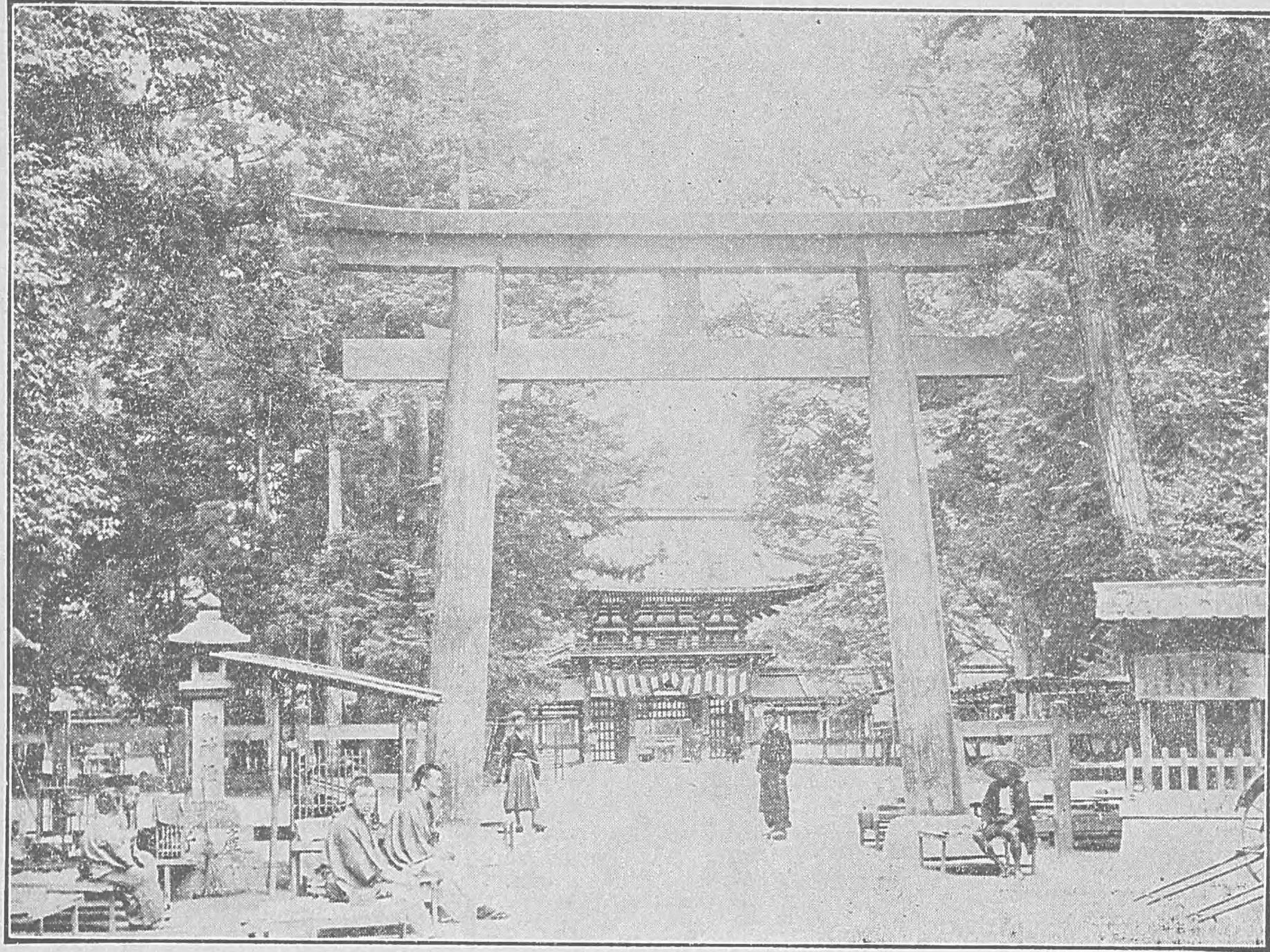
皇宮は上京區御苑の中央にありて、東西百三十七間南北二百四十六間あり、宮門は四方に建禮門建春門宜秋門朔平門あり。御苑は舊九門の内にして、皇宮、仙洞皆其中にあり、東は寺町より西は烏丸に至り、北は今出川より南は丸太町に至る。苑内は一面に青芝を植ゑ四時の眺望佳ならざるはなし、舊公卿の邸宅は多く此苑内にありたり。

葵 祭



我國第一の高尙優美なる大祭にして、古來たゞ祭と稱するは葵祭に限るなり
と、毎年五月十五日勅使奉行以下數十人京都御所に參集し、夫より行列美々しく
上加茂下鴨兩神社に參着していと莊嚴なる祭典を執行せらる、紅袍紫衣、白馬金
鞍互に相輝映し、行列整々として、長橋の上、神樹の陰など渡る處、まごころに繪卷
物を見るの心地あらしむ。

下 鴨 神 社



官幣大社の一にして、祭神は火雷神、並に玉依姫を祀る、欽明天皇の御宇創祀なし、天武天皇の白鳳五年始て殿社造營あり、桓武天皇遷都以來歴代の天皇崇敬いと厚く屢々行幸の事あり、殿社、樓門（共に國寶となる）頗る壯麗にして古代の式を存す、境内老松古杉陰鬱として幽邃清潔なり、社頭に糺森あり、靈泉涌出す。

上賀茂神社



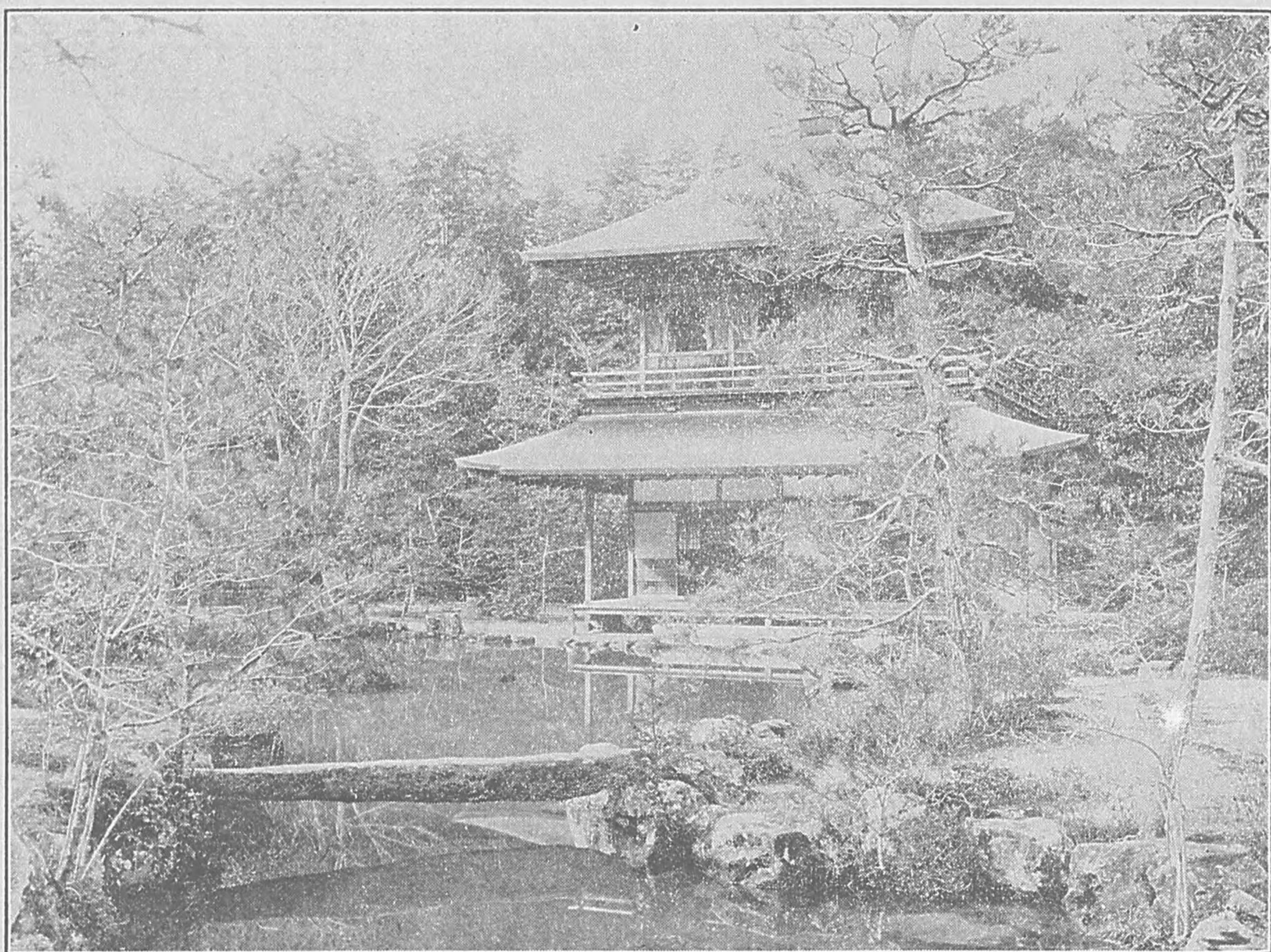
官幣大社にして加茂別雷神を祀る、下鴨神社と同トく天武天皇白鳳年間の鎮座にして、今の殿舎は寛永五年の修造なり、建築いづれも丹青彩畫の美を盡し壯麗云はん方なし。境内古木鬱蒼たり、例祭は下鴨神社と同日にして堀川天皇の御宇より始まりし舊式にして、其行装等頗る古雅なり。

比叡山延曆寺



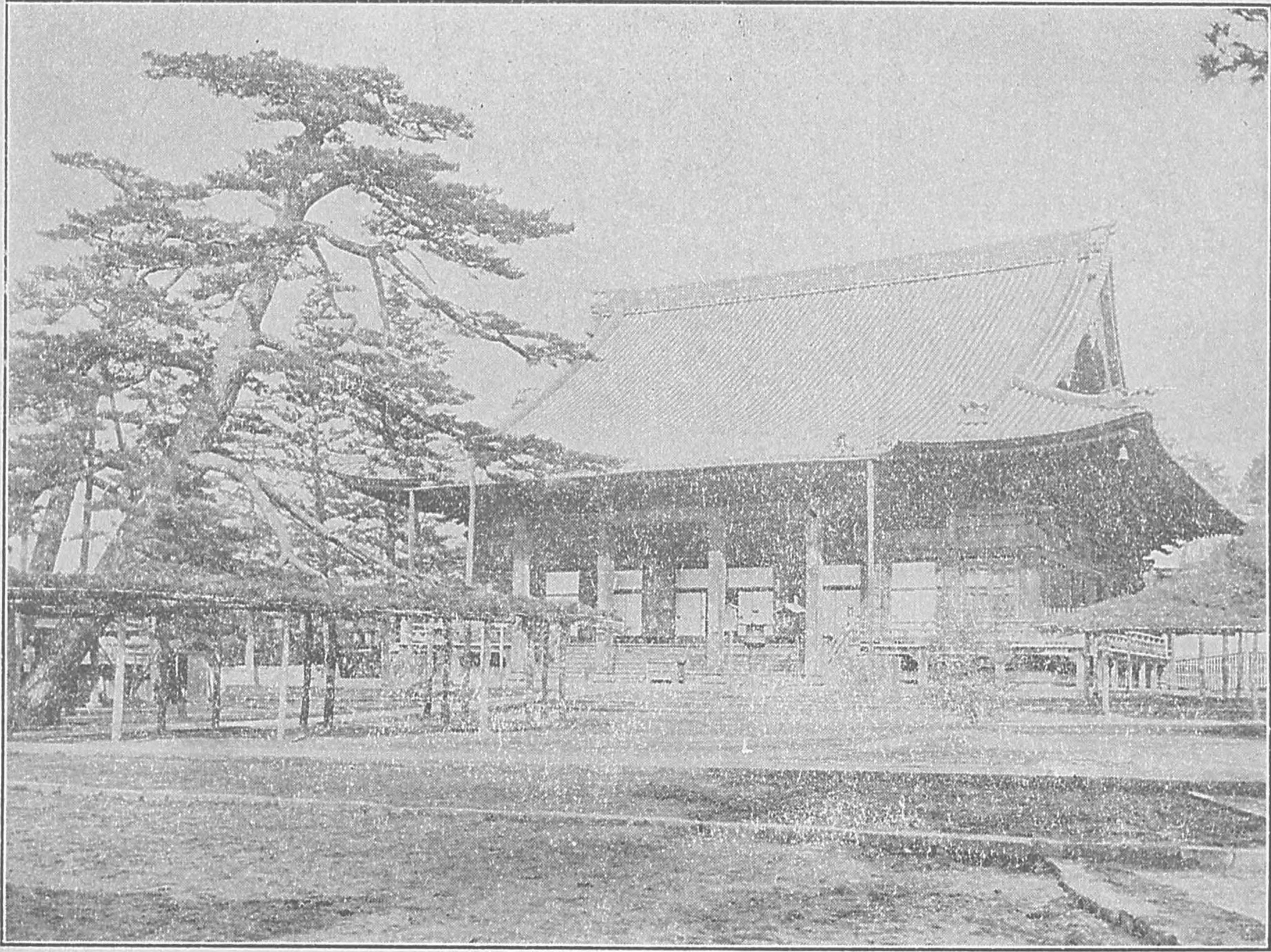
京都の東北に聳へ山城、近江、兩國に跨る高山にして桓武天皇奠鼎の時、傳教大師に勅して伽藍を此山上に建てしめ帝都の鎮護となす。延曆寺即ち是にして、根本中堂、講堂、戒壇堂、相輪堂等古昔の建築尙存せり、山中最高所を四明嶽といひ海面を抜く二千七百餘尺あり、絶頂の眺望は壯大云はん方なし。

銀閣寺



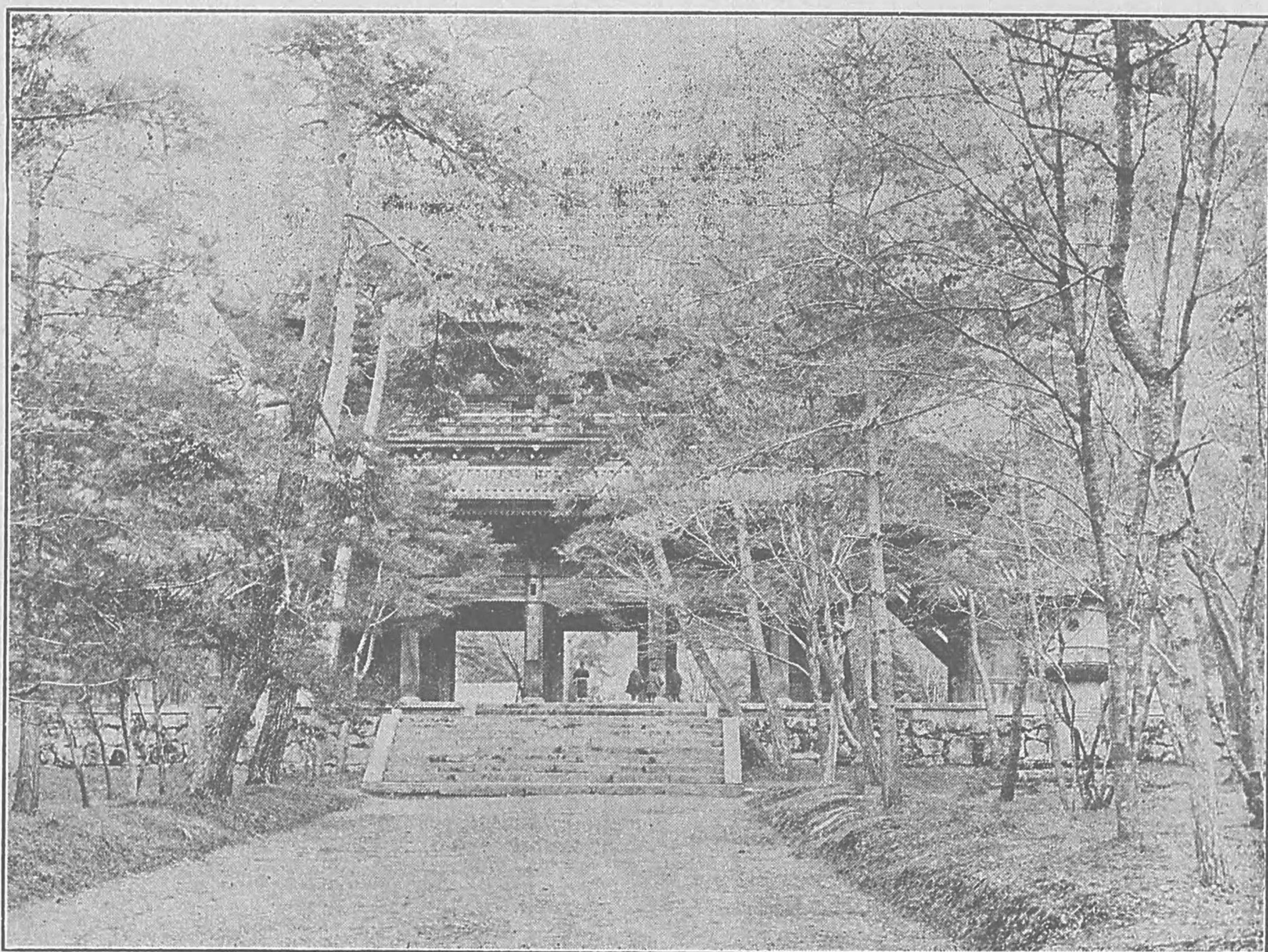
禪宗にして慈照寺と號し、夢窓國師の開山なり、舊は足利義政の山莊なりしが、
薨去の後遺命により佛寺となす。銀閣は二層閣にして、閣の壇上に運慶作の觀
世音座像を安んず、林泉は相阿彌の作にして築庭の模範を示し、其東端に茶室あ
り、即ち抹茶室に於る四疊半の濫觴なり。實に東山の名刹にして京洛に來る者
は必らず一遊せざるべからず。

黒 谷



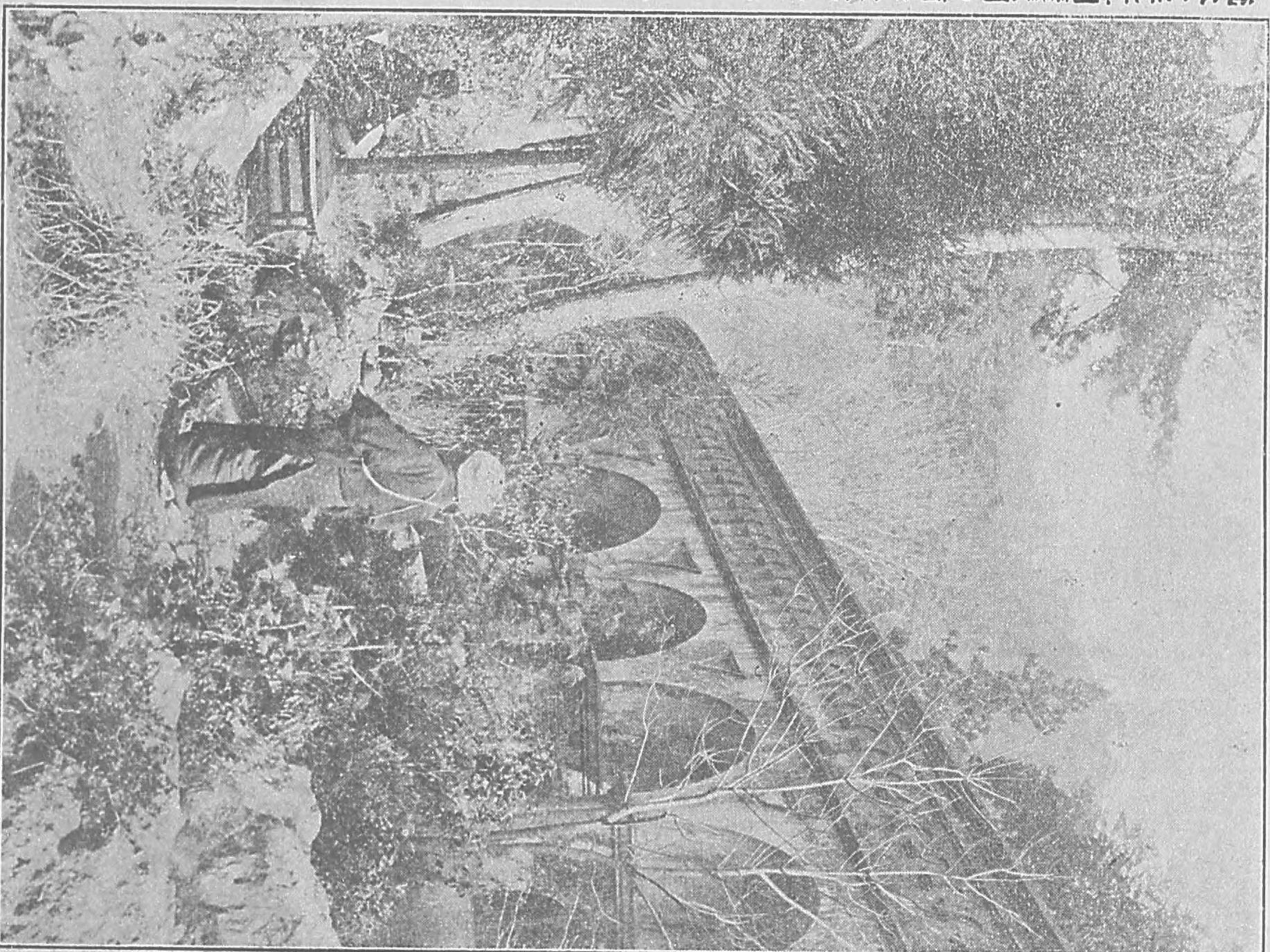
紫雲山金戒光明寺と號す、淨土宗鎮西派の本山なり、昔上法然上人が叡山西塔の黒谷より、移つてこゝに幽栖せしより新黒谷と稱し、後には單に黒谷と稱す、本堂には法然上人自作の像を安置す。堂前に一株の老松あり、鎧懸松と、相傳ふ熊谷直實法然上人につき髪を薙す時、其着せし鎧を池水に洗ひ、此松が枝にかけしふりかく名くと。

南 禪 寺



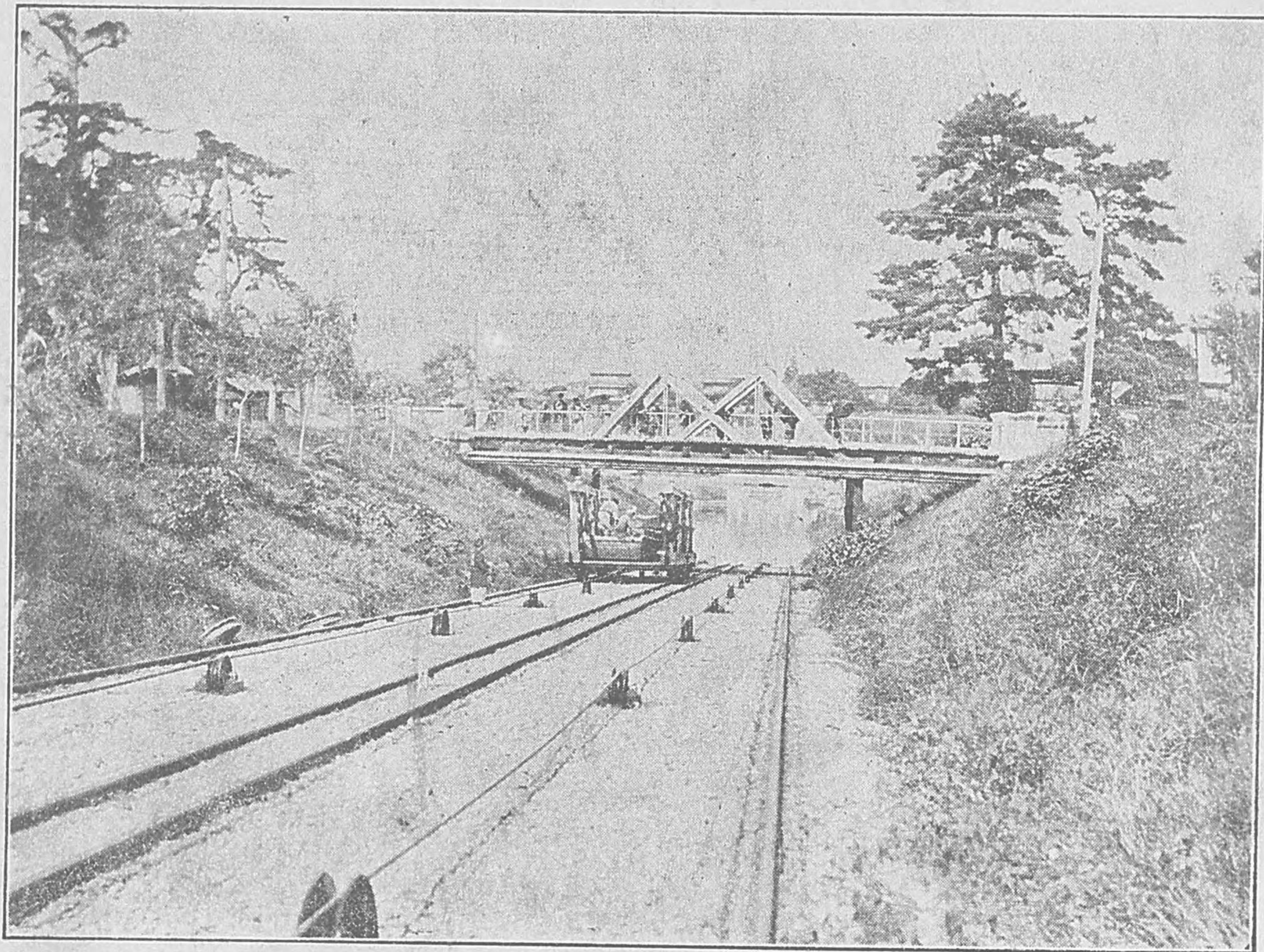
臨濟宗の本山にて、開山は大明國師なり、初めは龜山法皇の離宮なりしを國師に賜ひ伽藍となし、後に五山の上と定め玉ふ、山門は五鳳樓といひ、寛永年中藤堂高虎の再建なり、佛殿は明治二十八年一月焼失し、目下再建工事中とす、方丈は下賜の清涼殿と、桃山城の建物にして、襖の繪は狩野諸家の名筆とし、殊に探幽が水呑の虎はいと名高し。

河 運 水 疏



疏水は近江國琵琶湖の西岸大津三保崎より長等、日岡等の諸山を開鑿し、其流水を導きて、京都に達し、鴨運河に流注す。其水力を利用して電氣鐵道、電氣燈、紡績、染織、其他百般工業の原動力を生じ、併せて諸般の利益を起せしこと枚擧に遑あらず。

ンイラクンイ



南
禪
寺
畔
イ
ン
ク
ラ
イ
ン

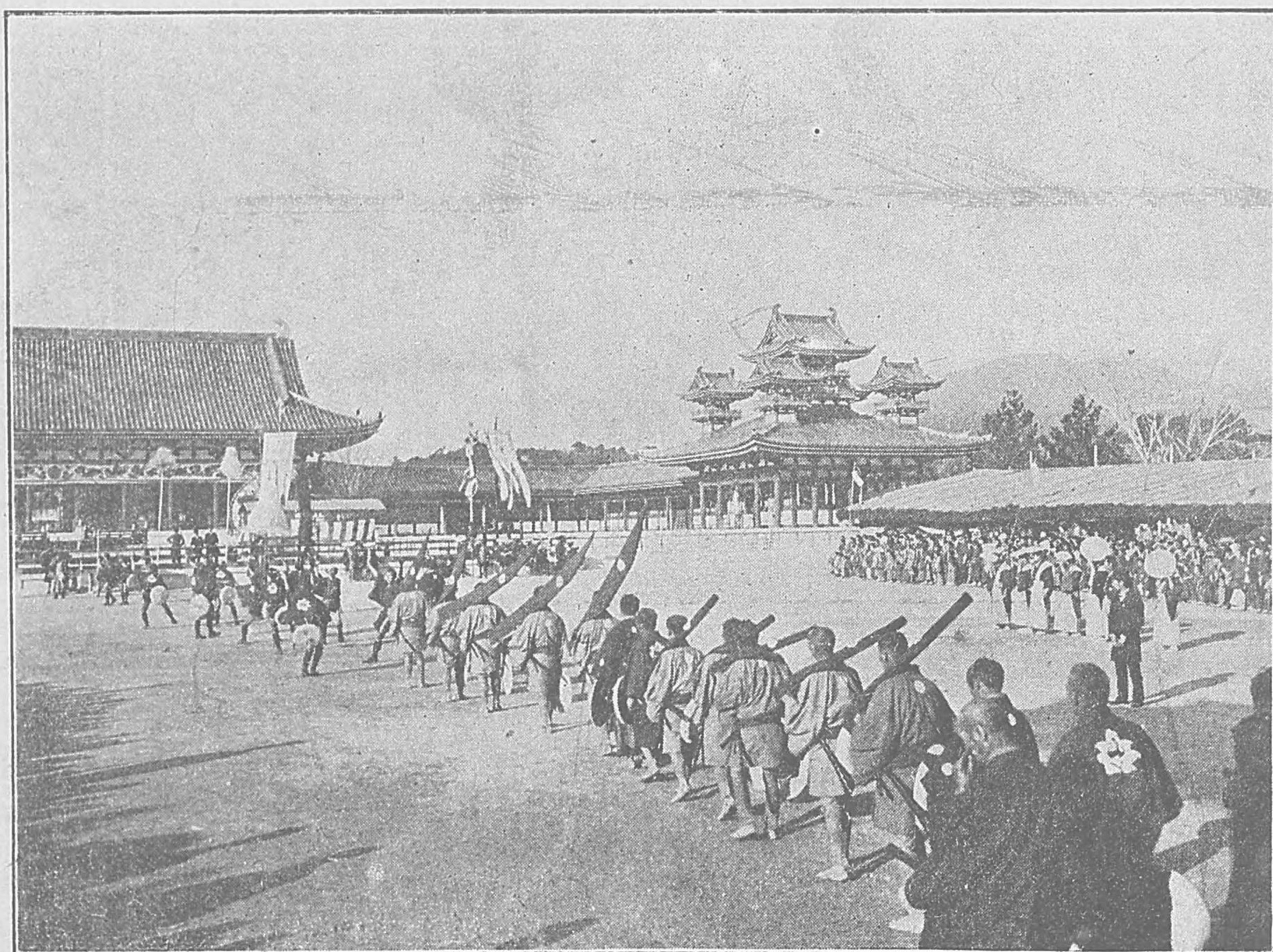
の
ぼ
る
奇
観
を
目
の
あ
た
り
ひ
か
し
の
人
は
夢
に
だ
も

(京都唱歌の一節)

南禅寺の舟山に
船頭もなく舟山に
のぼる奇観を
目のあたり
ひかしの人は
夢にだも

南
禪
寺
畔

大極殿と時代行列



明治二十八年京都市に於て平安遷都一千一百年祭を舉行するや、大極殿應天門を模造し、一に延暦の舊製に倣ひ宏壯華麗京洛の一偉觀を添へぬ。又時代祭は毎年十月二十二日之を行ふ、こは桓武天皇が延暦遷都以來千百年間に於ける文物制度の變更せし時代を區別し、當時の行装を模し出して祭典を粧飾するものにして、實に日本無比の奇觀なり。

武 德 殿



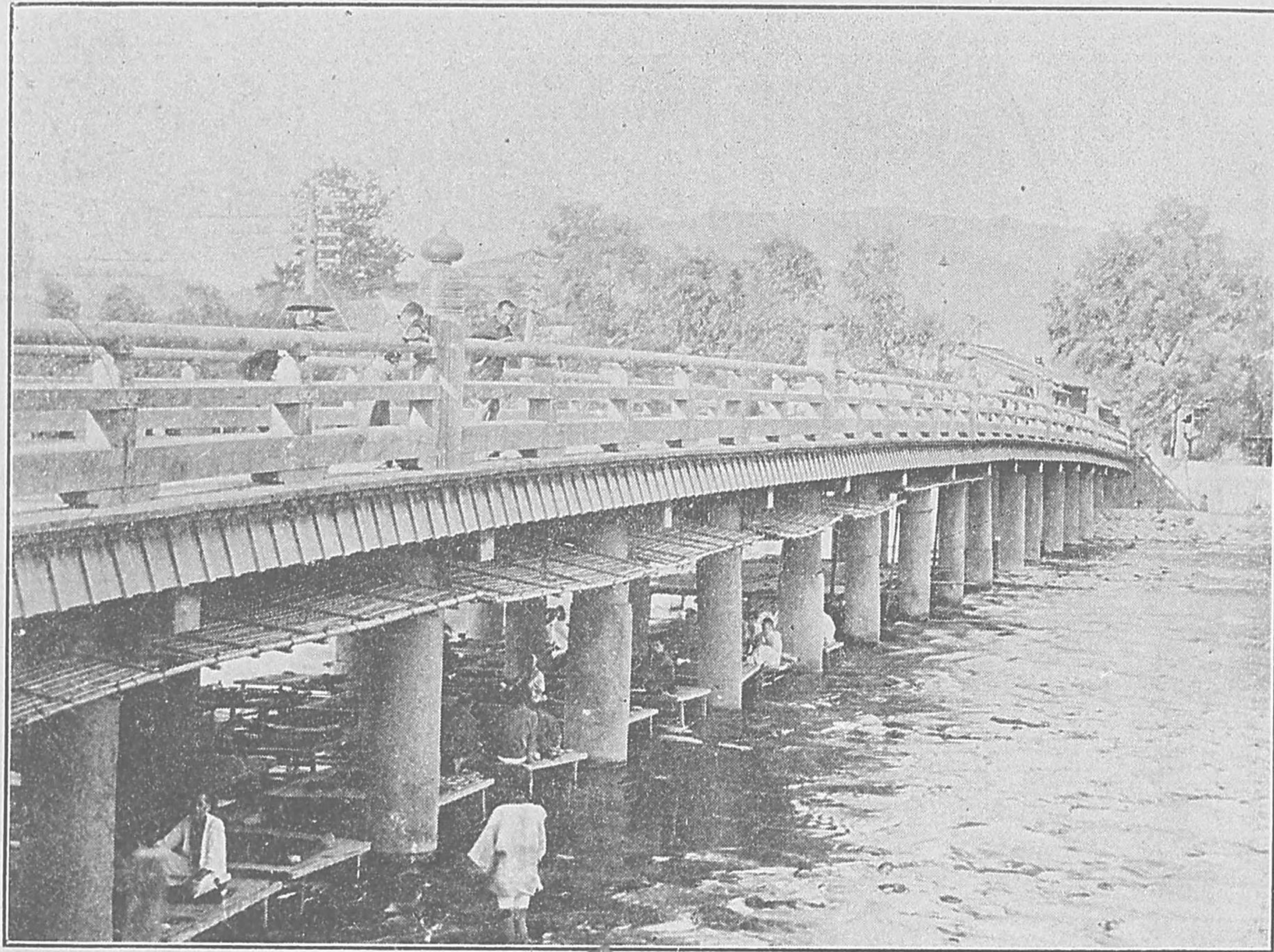
本殿は其昔桓武天皇が大内裏に武德殿を造營し、専ら武技を奨勵し玉ひたる宏
謀を仰ぎ明治二十八年志士相謀て武德會を設立し。同三十二年に建築竣工した
るものにて毎年五月四日平安神宮に於て武德祭を執行し、之と同時に全國の武
術家を武德殿に會し、各種の武術を演ぜしめ斯道を作興する處とし建築宏壯輪
奐なり。

北垣男爵銅像



疏水運河の企畫成功者は當時の京都府知事北垣國道氏にして、其銅像は頃日疏水中島の畔に建設す。銅像鑄造者は鑄金家平野英吉堂にして實に京都に於ける銅像の嚆矢なり。

三條大橋



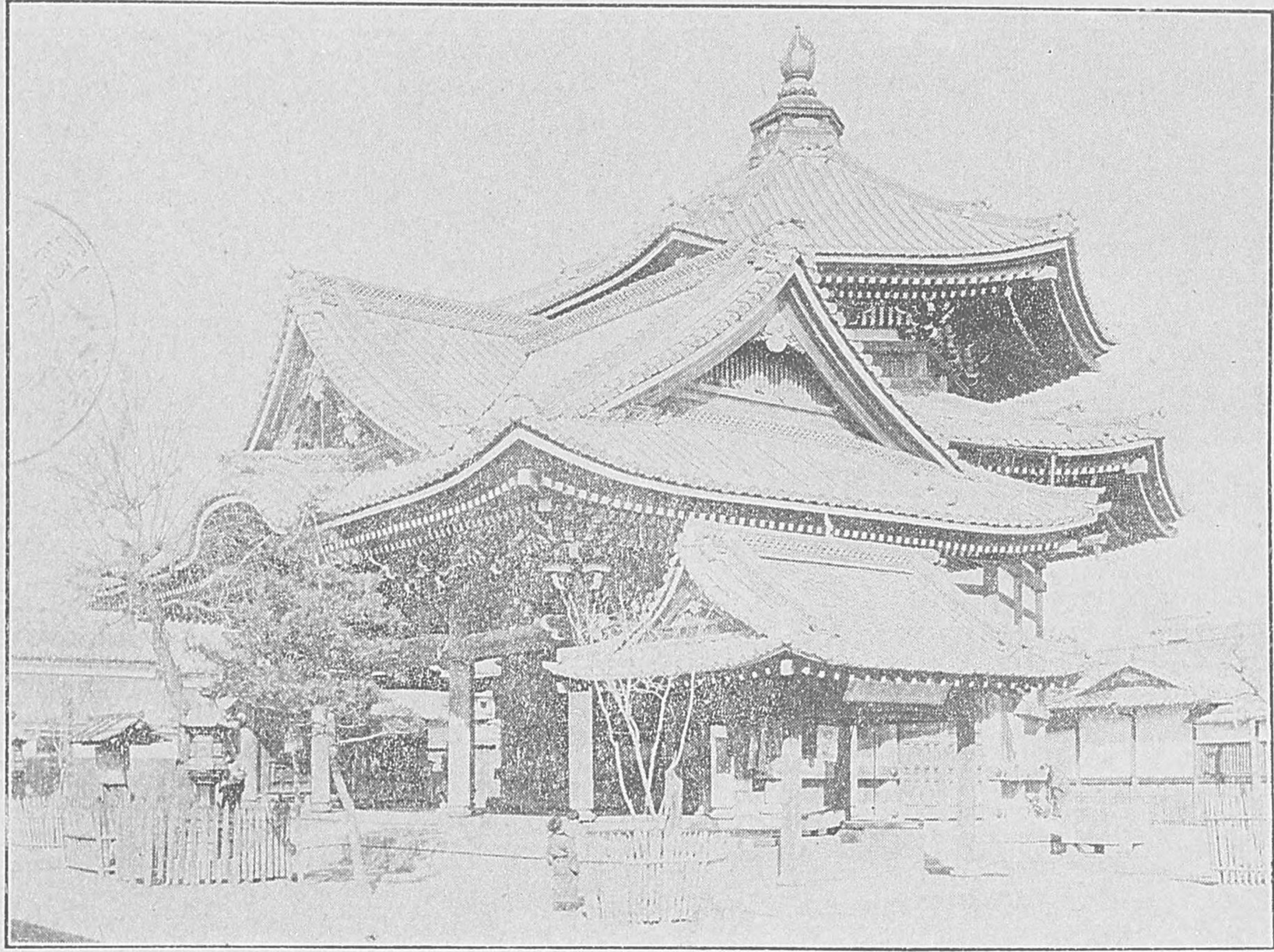
京都三大橋の一にして天正十八年豊太閤が初めて造營せしめしものにかゝる、
自後二回の改造修築にも、擬寶珠は當時のものを襲用し銘文等尙存す。本橋は、
東海、東山、北陸等諸街道の起點にして、里程元標亦こゝに在り諸道の旅客輻湊
して晝夜往來絶えず。

新 京 極



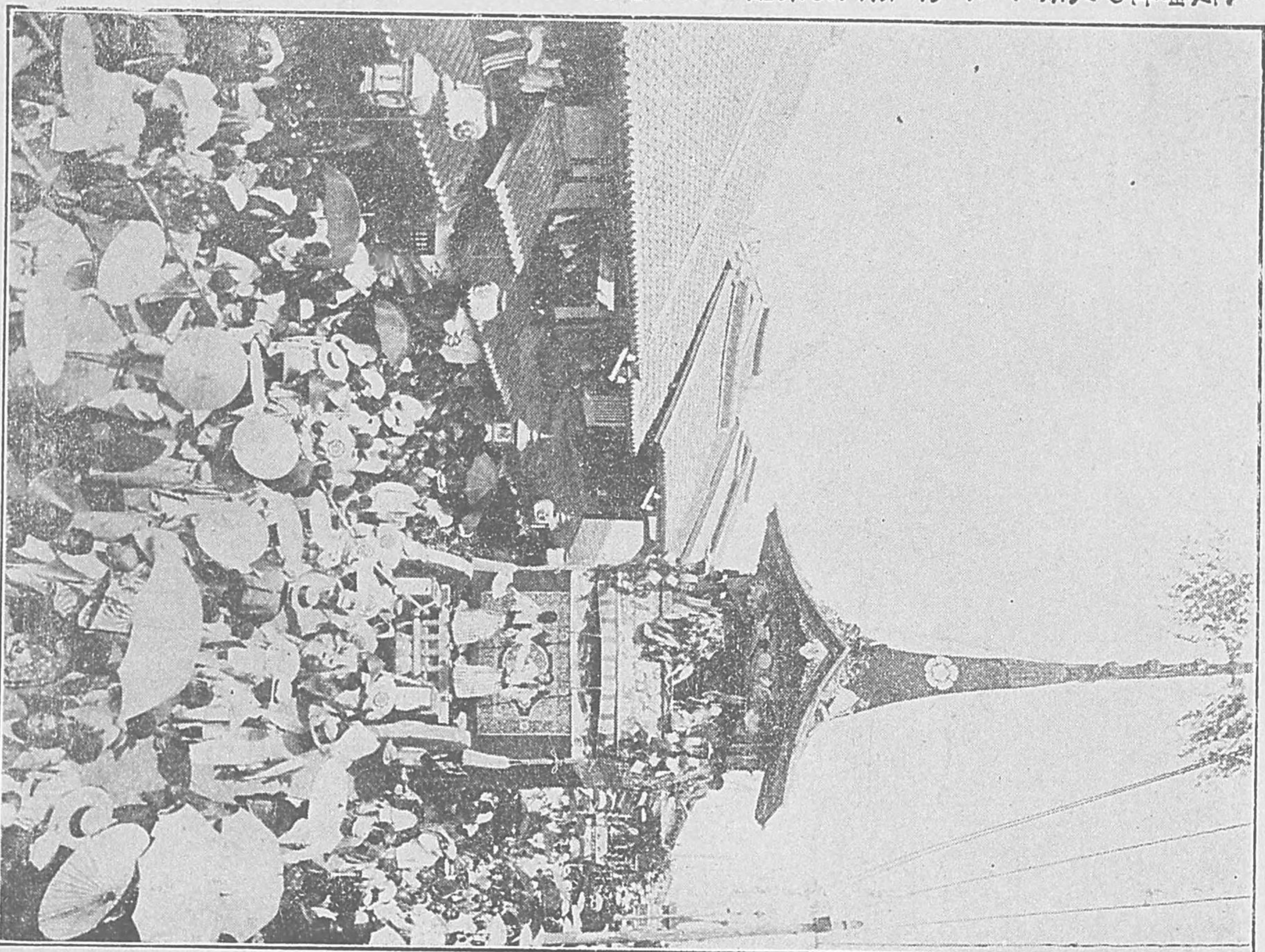
この地もと誓願寺の境内に屬せしを以て誓願寺と稱したりしが、明治維新の後
道路を開通し更に呼で新京極といふ。即ち京都第一の熱鬧場にして演劇、音曲、
輕業、軍談、落語の興行場并に種々の飲食店、玉突、空氣銃、其他いろくの商舖
多く遊人肩摩して、晝夜雜踏を極む。

六角堂



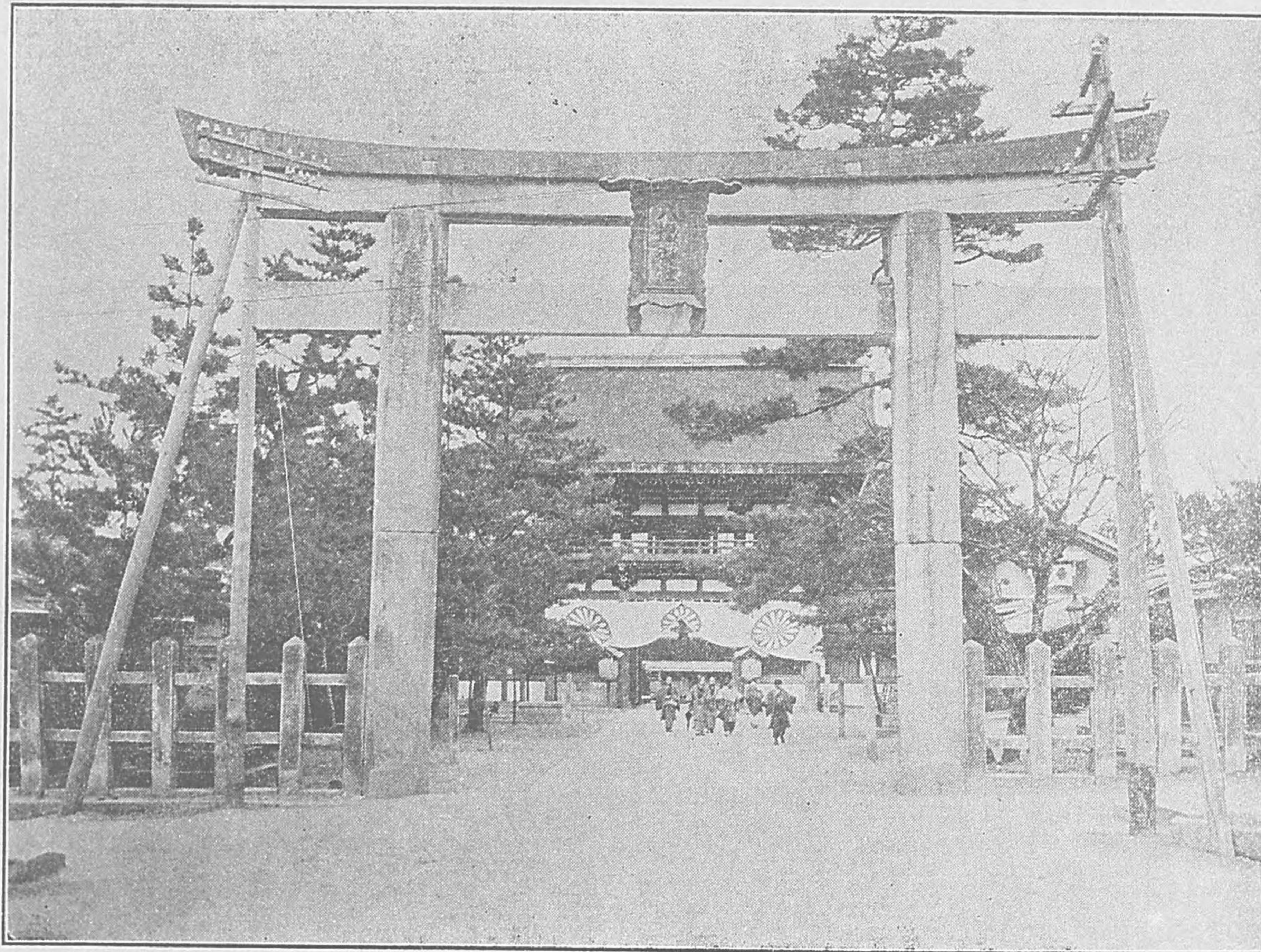
頂法寺と號す、天台宗にして聖德太子の開扉せし處なり。本尊如意輪觀音は一
寸八分の黄金佛にして、むかし淡路國岩屋浦の海中より獲たるものなりといふ。
眞宗の宗祖親鸞上人が叡山より百日間此堂に參詣し、本尊の靈告により法然上
人に隨侍し、遂に一宗開發の因をなせしは世の知る處なり。堂の構造は六角形に
して元治兵燹後の再建なり。

會 園 祇



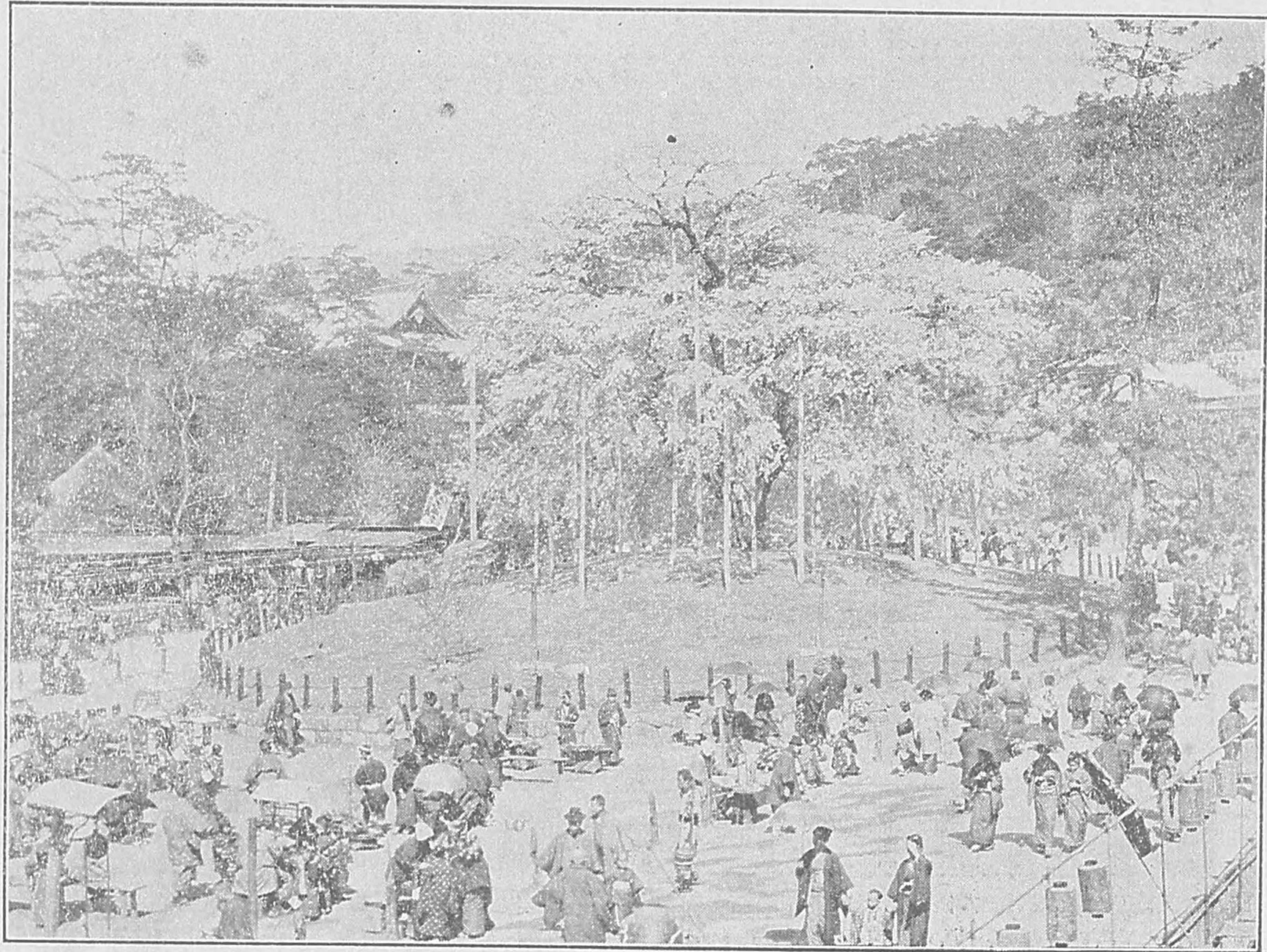
入坂神社の私祭にして、古來京都祭禮中第一華麗なるものとし、毎年七月十七日と同二十四日の兩日に執行す、十七日に神輿本社を出御、四條御旅所に神幸あり此處に七日間駐蹕二十四日に至り、再び還幸せらる、兩日とも市内各町より、錦織珠玉を以て美麗に粧飾せる多くの山鉾を曳出し、其數は十七日を多しとす。

八坂神社



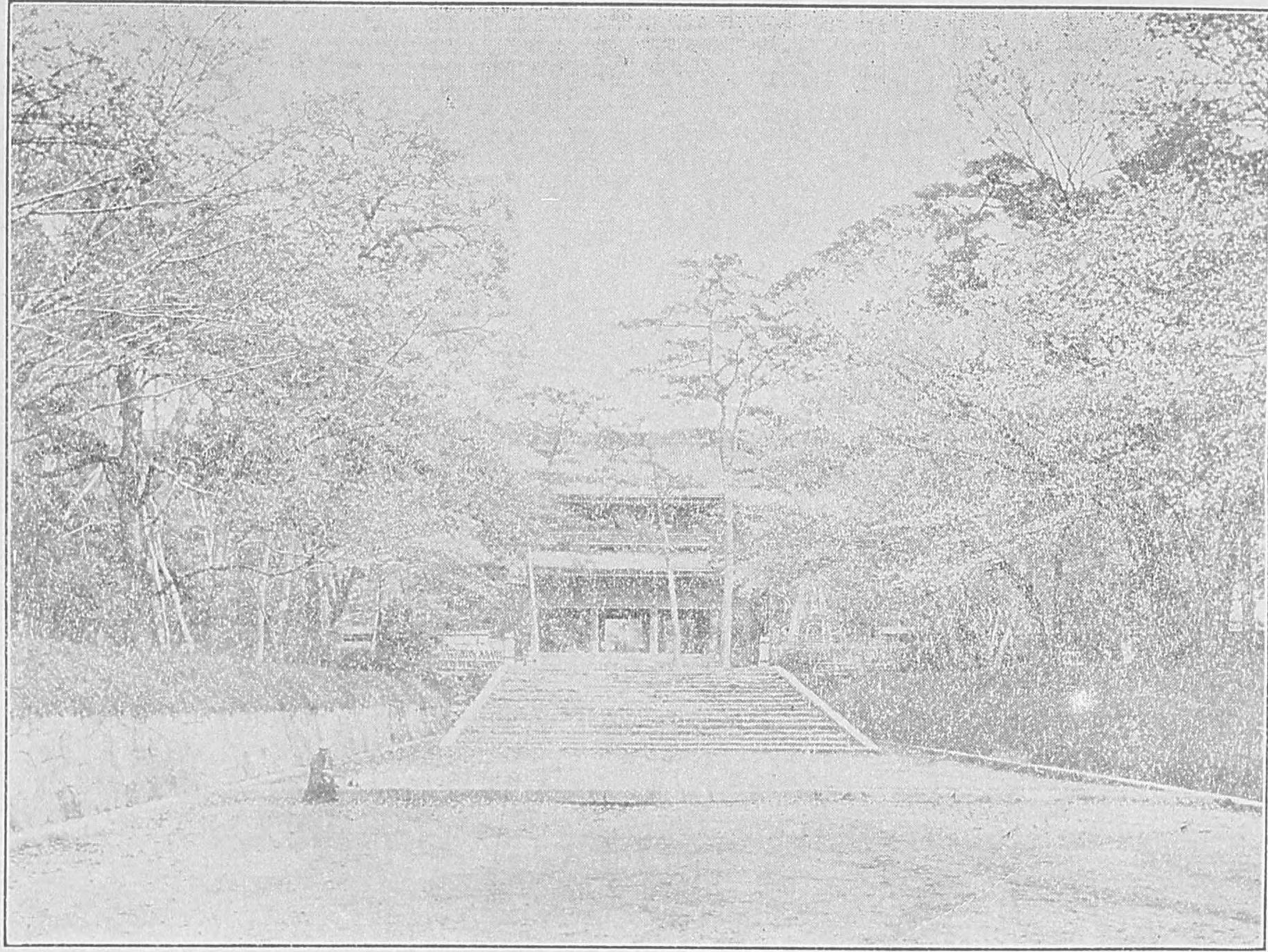
祭神は素戔嗚尊にして、稲田姫、八王子を合祀せり、殿舎壯麗にして、拜殿神樂殿繪馬堂、攝社、末社等いと多し。南門を南大門といふ、其南に石鳥居ありて八坂神社の額を掲ぐ、西門を西大門といふ、左右に隨身を安んず石階を下れば即ち祇園町なり。

圓山公園 (祇園の櫻)



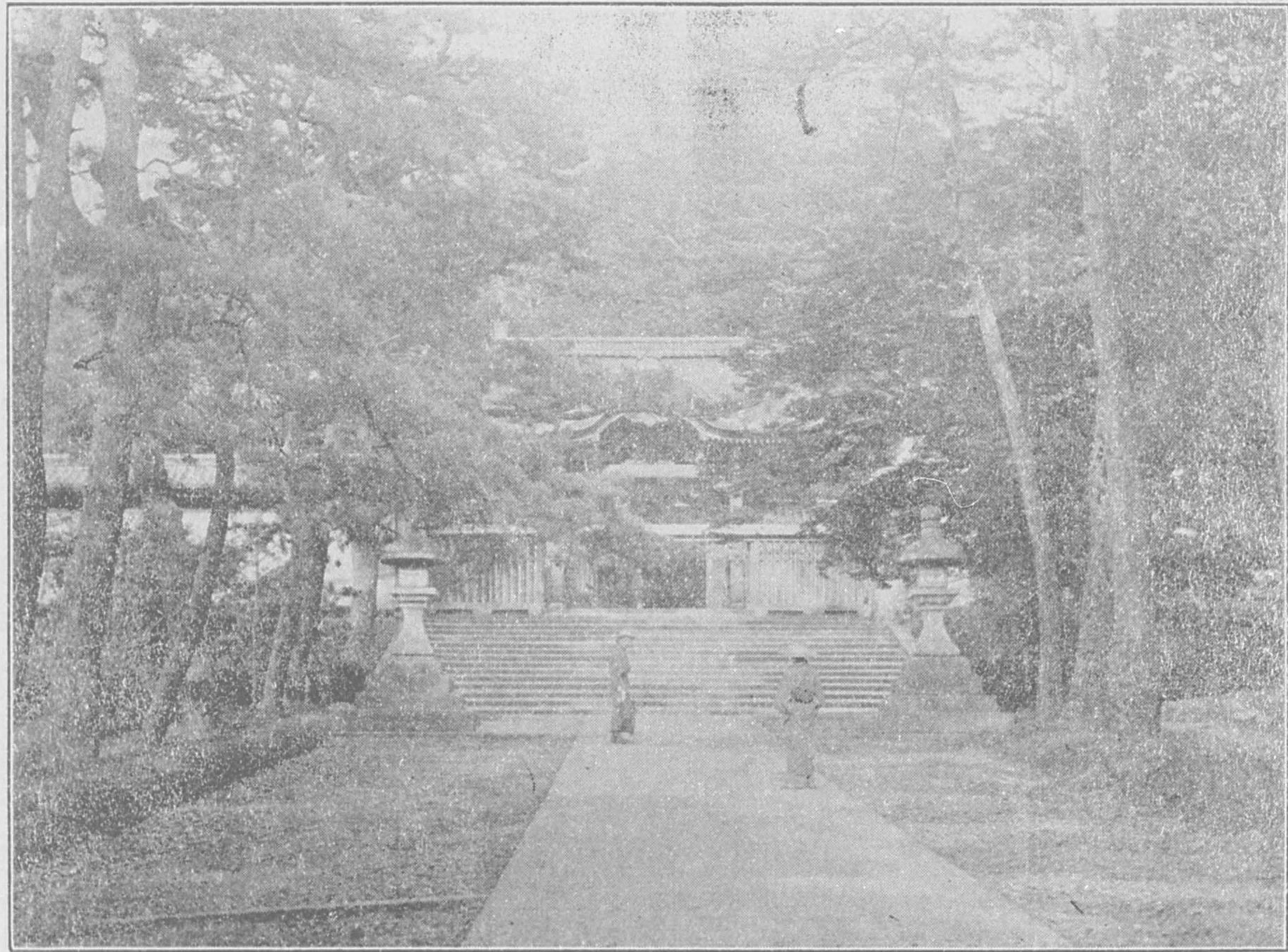
舊比叡山に屬せる安養寺の境域にして、現今は京都唯一の公園となり、綠樹芳艸
四時の美をそなへ、年中の眺め盡るはなし、殊に有名なるは中央小丘の上にある
絲垂櫻にして、萬條の垂絲はさながら瑤絡の空にかゝる如く、其美觀言語に絶す
されば夜に入れば其下に篝火を焚き、四邊の茶店酒舗は紅燈を幾千となく點
つらね、其下には遊人群集して、醉歌觀賞殆んど狂する如し、之を祇園の夜櫻と
す。

知 恩 院



華頂山大谷寺と稱し、東山第一の巨刹にして、淨土宗の總本山なり、山門（國寶）に掲ぐる華頂山の金字額は靈元天皇の宸筆にして、閣上に寶冠釋迦佛、及び十六羅漢等を安置す、閣上の眺望頗るよし、境内は櫻楓樹多く、また有名の淺黄櫻あり。

東大谷



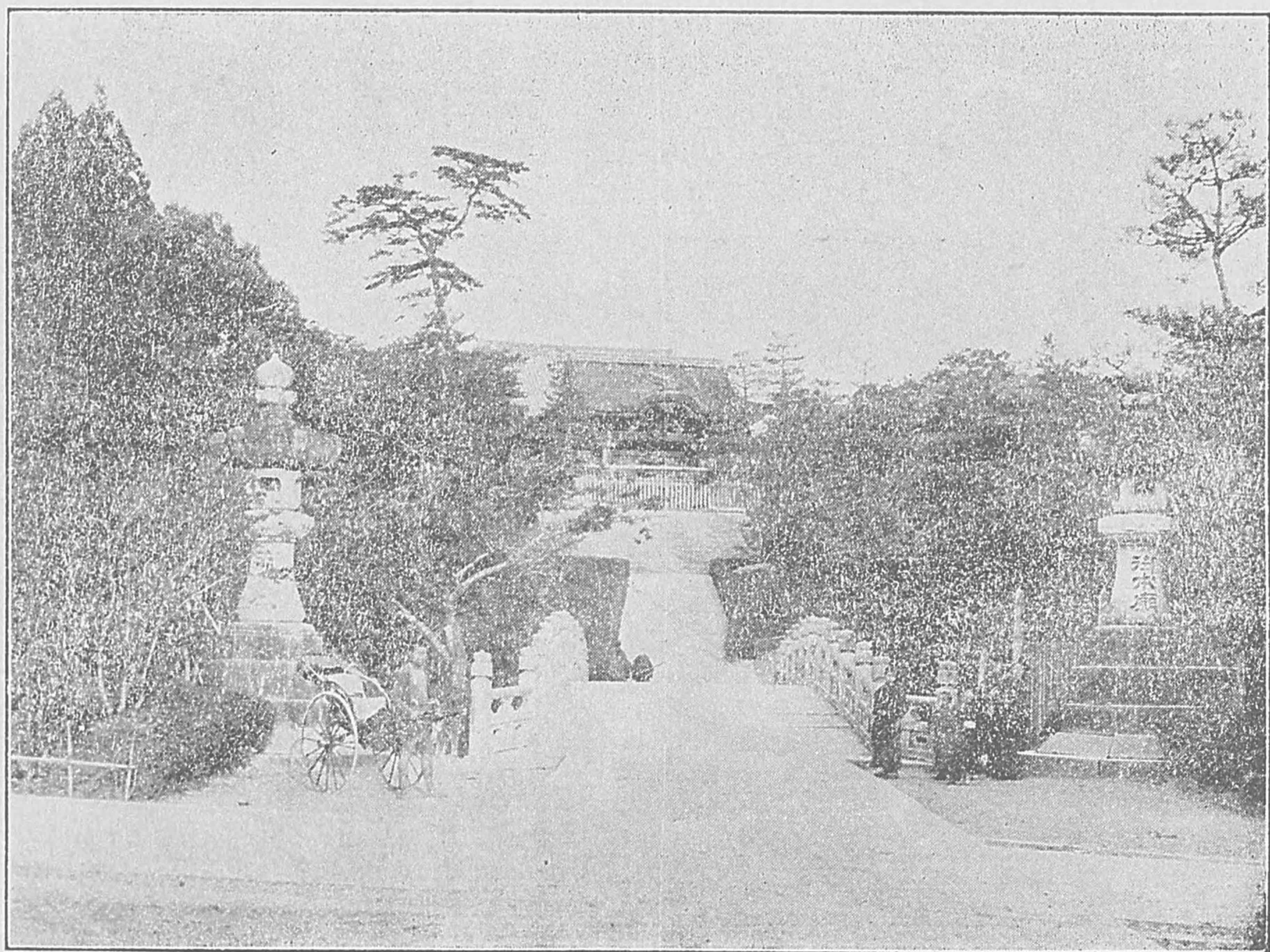
眞宗大谷派本願寺の廟所にして、同宗門徒の遺骨を納むる處なり。堂宇壯麗にして、門前に松林あり翠綠滴らんとす。親鸞上人の廟所は後の山腹にあり、境内清淨にしてまた一佳境なり。

高 臺 寺



鷲峰山と號す、豐太閤の夫人北政所高臺院の建立にして、堂宇輪奐たりしが。數度の回祿に罹りて大半烏有となる、されど開山堂、并に太閤及び夫人の靈舎は尙存し、壯麗云はん方なし（靈舎に太閤及び夫人の木像あり）また後山に時雨亭。傘亭といへる有名の茶亭あり、境内萩多く、三秋の候は遊人極めて多し、

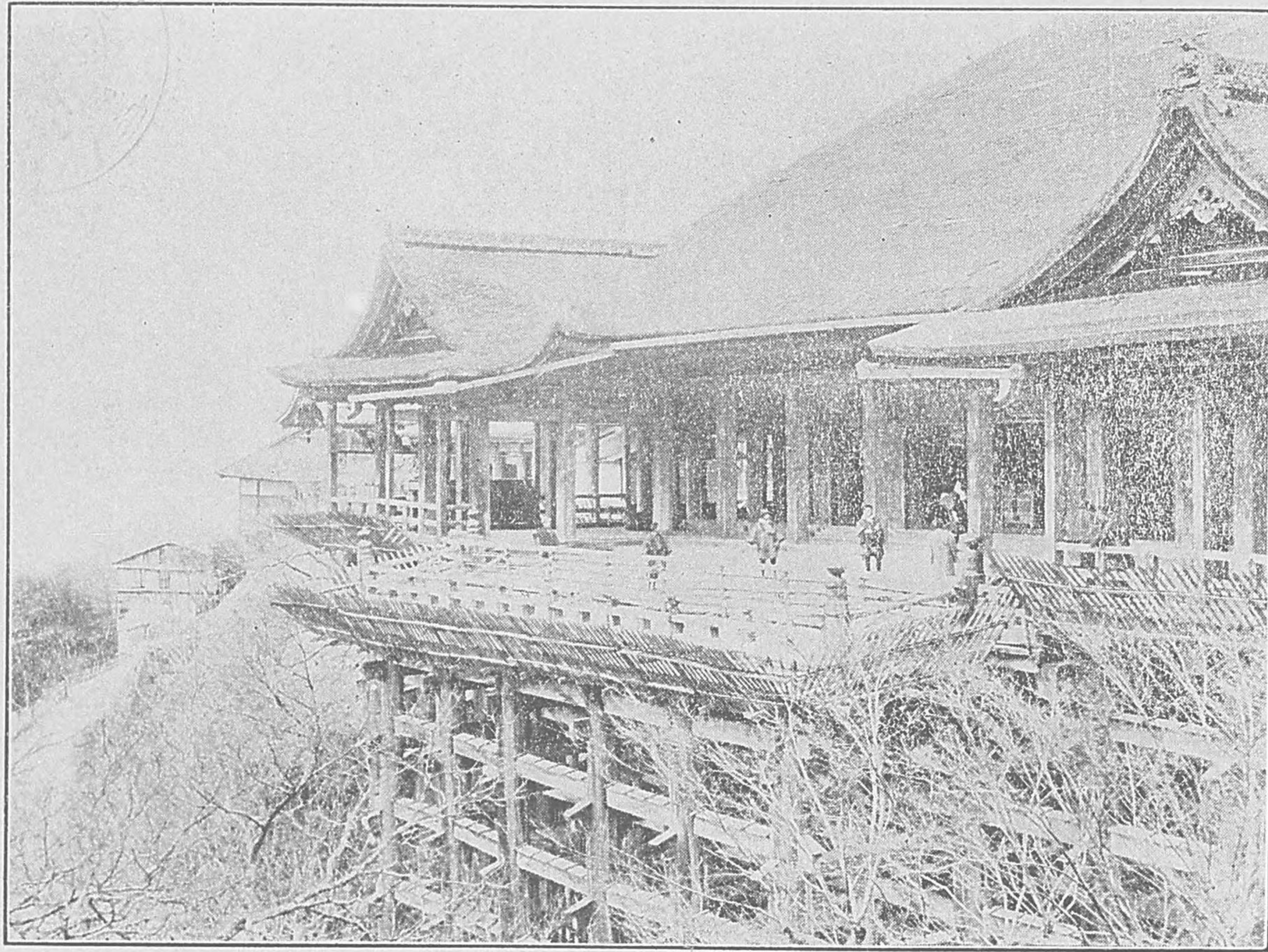
西大谷



眞宗本派本願寺の廟所にして親鸞上人の本廟なり、本堂には阿彌陀佛を安んず、
廟所は本堂の東の上にある、左右に石垣を繞らし、顯如上人以來代々の墳墓あり
門前の池を皎月池といひ、中央に架するを圓通橋といふ、世に眼鏡橋と稱す、四
時の風光佳絶にして洛東の名境なり。

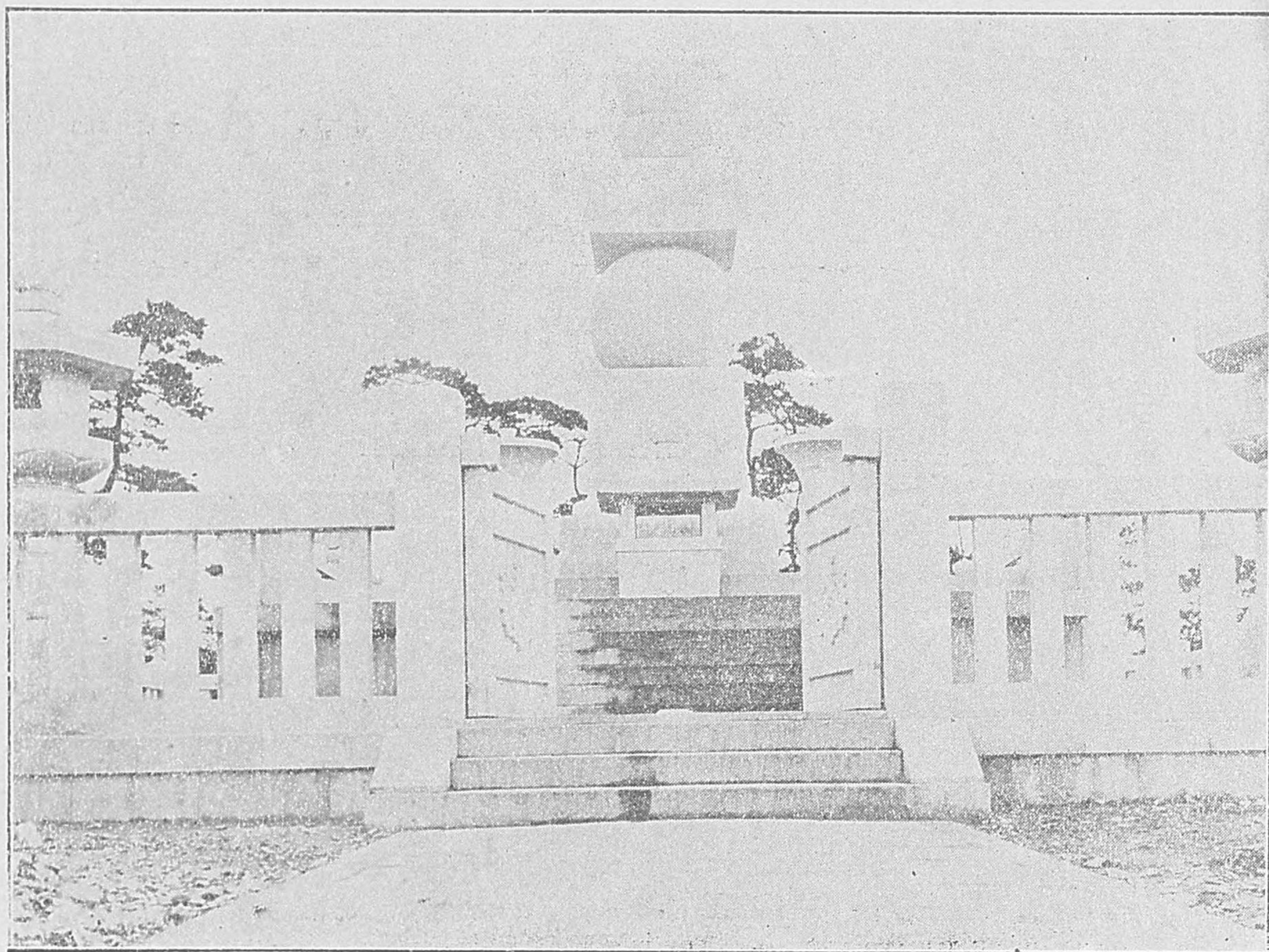
三三三

清水寺



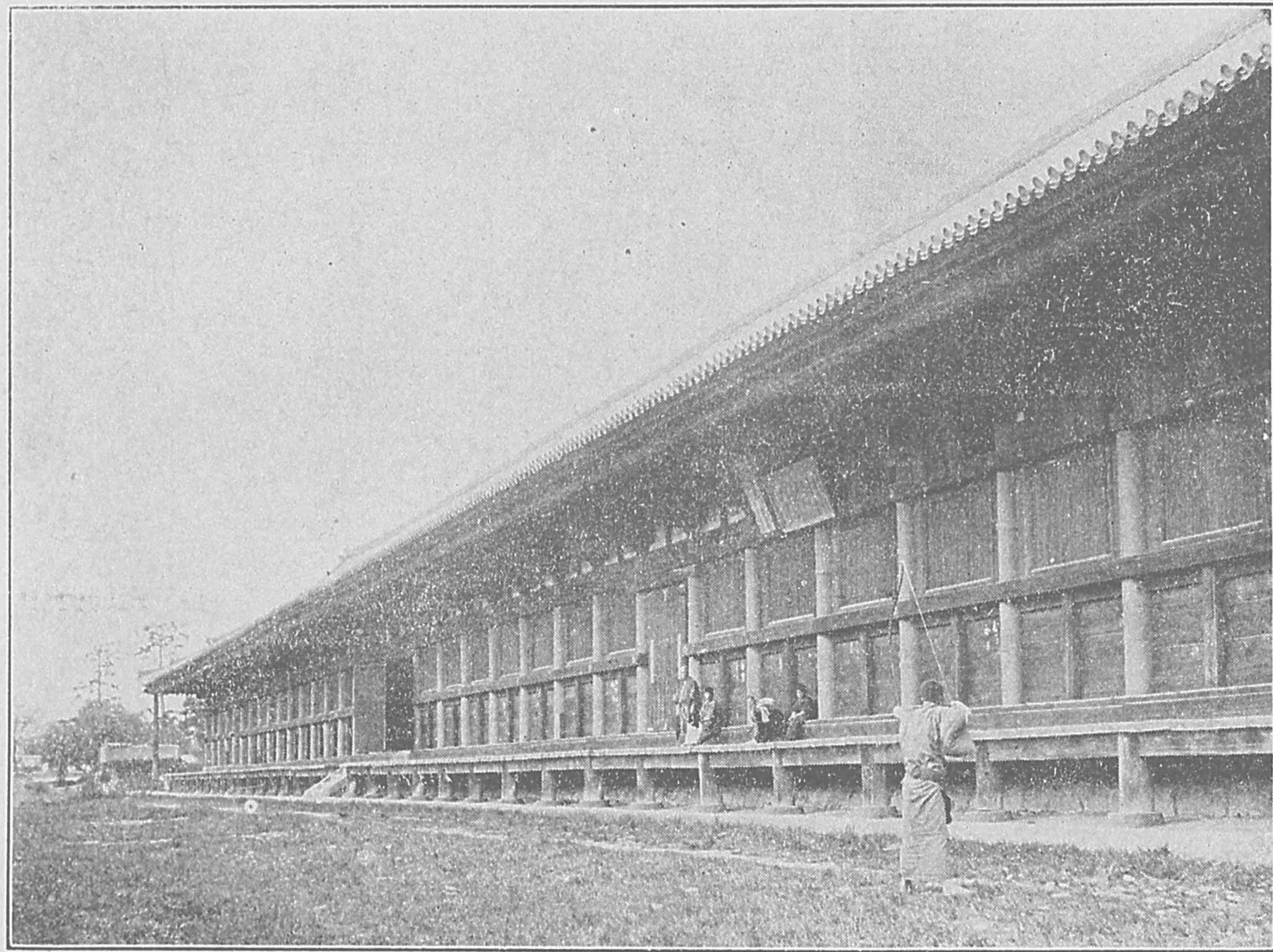
大同二年將軍坂上田村麿の創立にして、十一面千手眼観音大師の像を安んず、堂宇は檜皮葺殿舎造にして懸崖により建築し、前に舞榭を架す、世に之を清水の舞臺といふ。舞臺より眺むれば山城の西南一帯、淀川の長流より八幡、山崎、さては河内、攝津の山々に至るまで、一眸の中に收むべし。

豊國廟



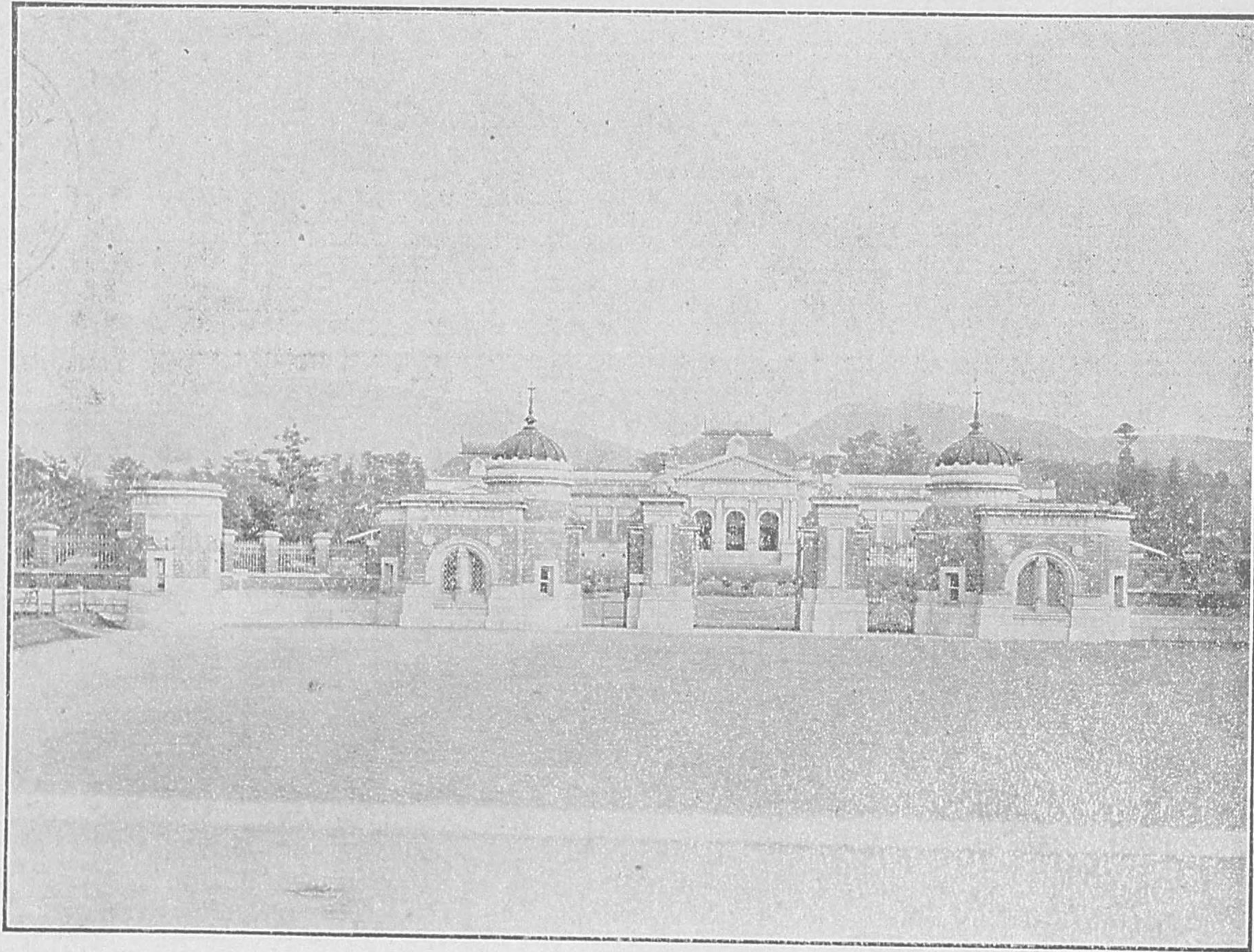
豊太閤の廟所なり、太閤慶長三年八月十八日伏見城に薨ト、阿彌陀ヶ峰に葬むりしが、翌年朝廷は正一位を贈り豊國大明神の謚號を賜はりしに、新に社殿を造營し、宏壯華麗を極めしが、徳川氏の世に至り破毀せられ、爾後二百餘年間荒廢に委せしを、明治三十年有志者之を慨し、相謀て廟營を修築せり。

三十三間堂



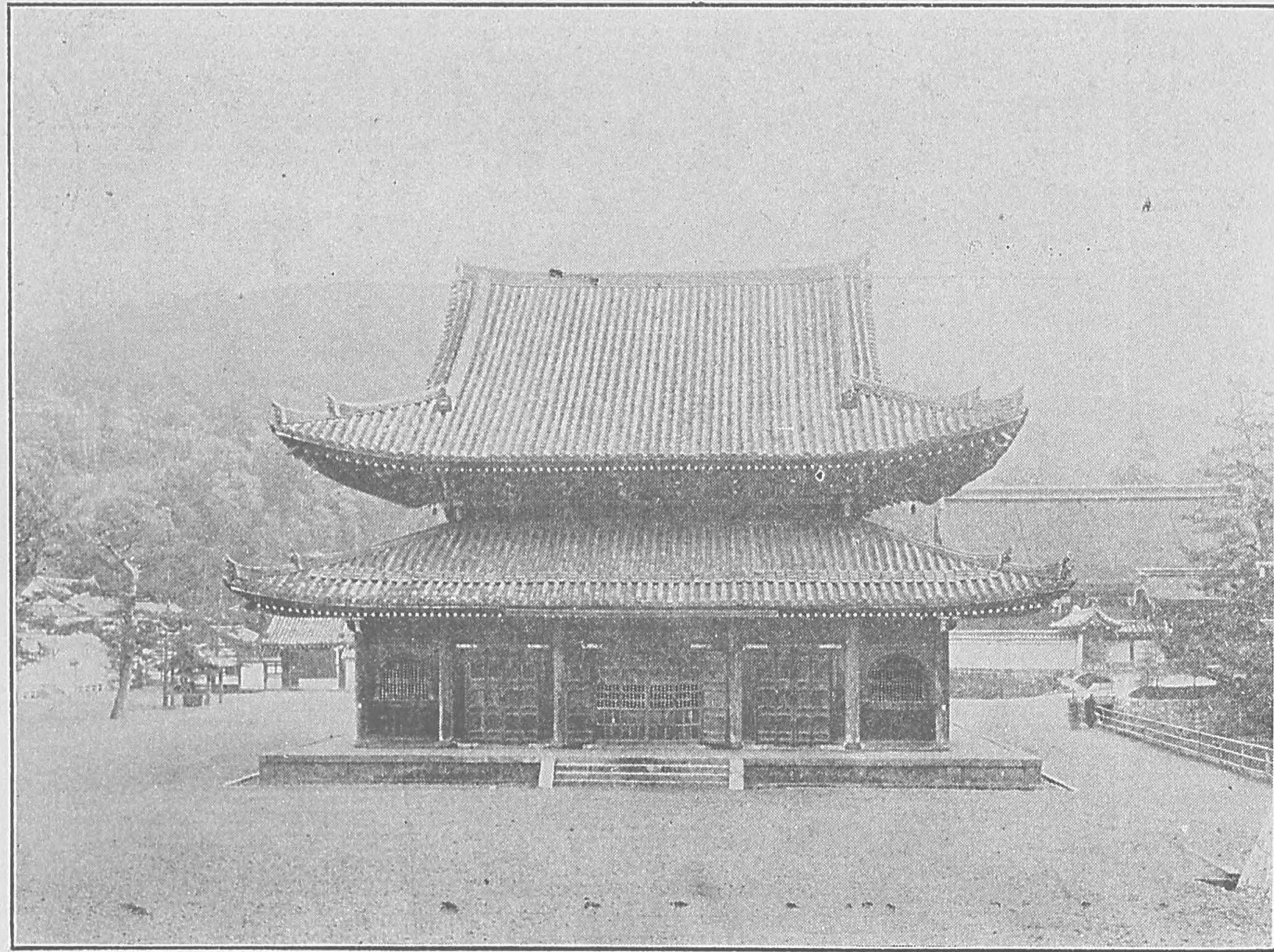
蓮華王院といふ、後白河法皇の建立なりしが、建長元年三月炎上し、同三年八月再建上棟式あり、現在の本堂(國寶)は建長三年の造營にして、今を距る六百五十年許とし、洛中古建築の優等なるものとす、其構造は東面南北の長棟にして、凡そ六十六間あり、二間を隔て、柱を建るが故に三十三間堂と稱す。

館物博室帝都京



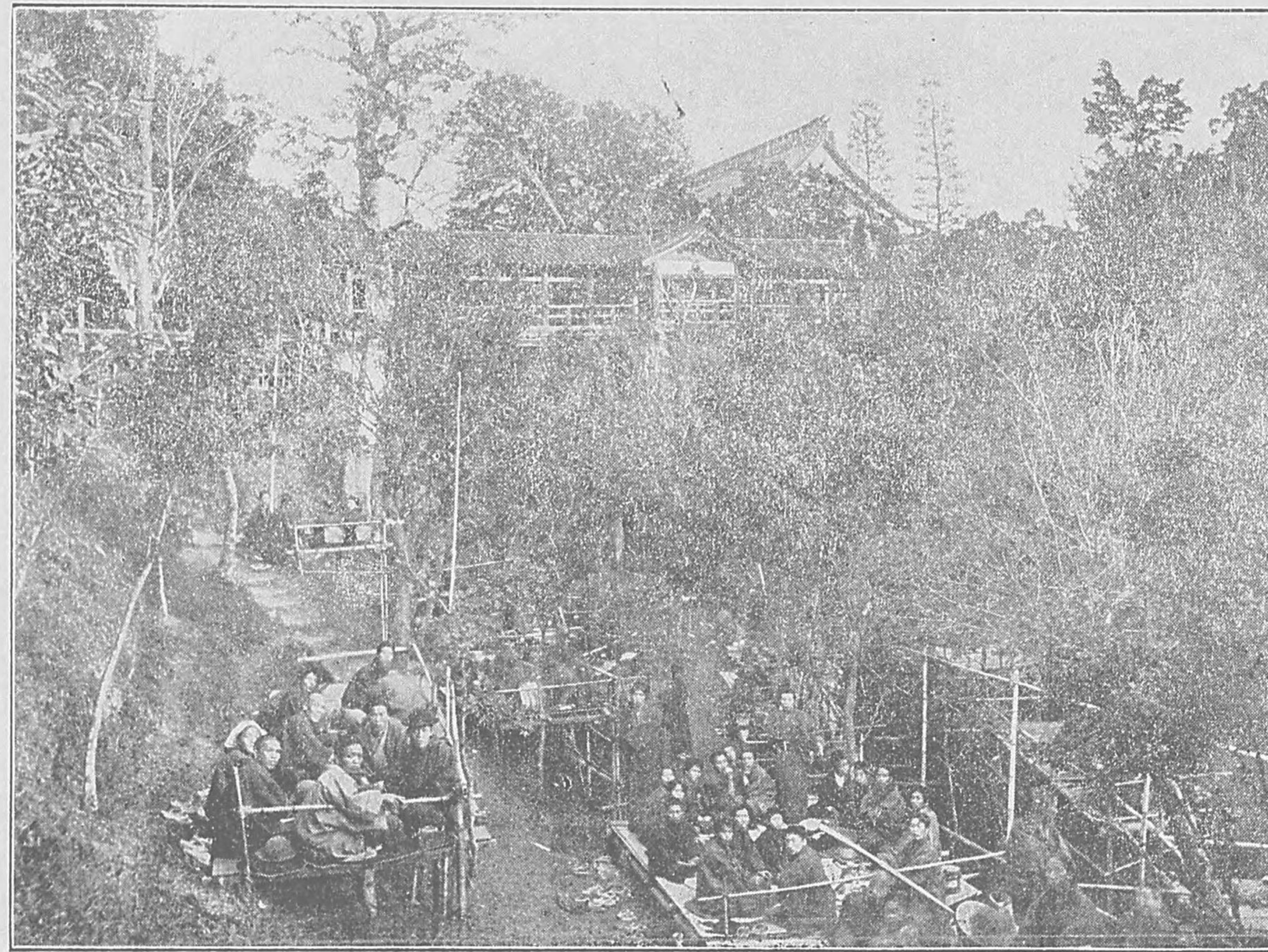
明治二十五年六月起工し、同二十八年十月に至り落成す、玄關正面の上には帝國
京都博物館の七大字を刻し、其上に技藝天女と、毘首羯摩の兩像を刻す。本館は
十七室に分ち、繪畫、彫刻、武器、圖書等數十室に區別す、庭園も淨潔に、建築は輪
奐とし、實に帝室の博物館たるに耻ぢずといふべし。

泉 涌 寺



開基は弘法大師にして、初め眞言宗なりしが、齋衡三年左大臣緒嗣公再建して天台となり、其後俊仍法師中興してより天台眞言禪律の四宗を兼修す、麓に清泉涌出するを以て泉涌寺と稱す。當寺は四條天皇以後歷朝の御廟所にて、後山には歴代の天皇、皇后及び皇族の御陵墓多く安んず。

東福寺通天



濟家禪宗にして開山は聖一國師とす、本堂法堂とも前年焼失せしが山門（國寶）
傳衣閣其他古建築多く、殊に有名なる通天橋は深溪の上に架し、四邊皆楓樹にし
て、霜葉の候橋上より下瞰すれば、兩崖錦繡をわけて清溪に映照し絶景いふべ
からず。當寺寶什極て多く其中尤も世に名あるは、兆殿司の畫ける涅槃像と五百
羅漢の像なり。

稻荷神社



東福寺より南に十余町を距つ、官幣大社にして、和銅四年二月午日倉稻魂神始て
本社の後山なる三ヶ峰に垂跡し玉ひ、延喜八年藤原時平社殿を造修し、其後永享
十年三ヶ峰より今の地に遷座せりといふ、殿舎樓門頗る壯麗にして、諸國より參
詣の人常に絶えず。

大谷派本願寺



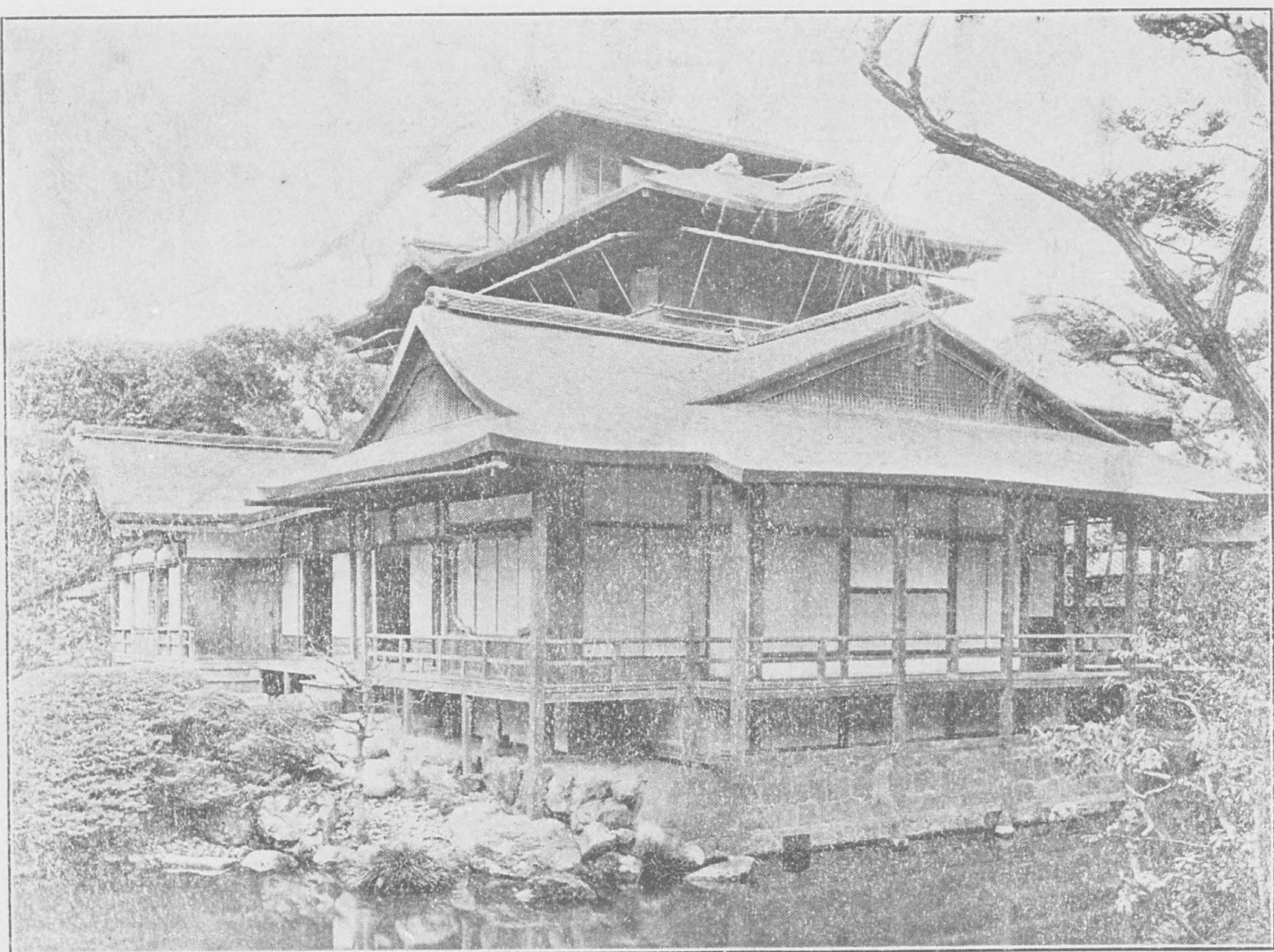
慶長七年本願寺第十一世顯如上人の子、教如上人徳川家康の命により、後陽成天皇の勅許を得て、本刹を創建し、之を大谷派本願寺と號す、世に東本願寺といふ。殿堂は數回回祿に罹り現今のものは、去る明治二十八年に再建竣工せしものなり、建築宏壯、粧飾莊嚴にして人目を驚ろす。

寺願本派本



眞宗本派の本山なり、文永三年親鸞上人の女覺信尼始て勅許を蒙り、上人の廟舎を知恩院境内に造營せしが、その後屢々戦亂に遭ひ、所々に轉移し遂に此地に遷りて大伽藍を建立せり。堂殿宏壯、雄麗無比なり又四脚門、大玄關、白書院、黒書院、いづれも國寶等ありいづれも豊公が伏見桃山城の遺構を移せしものにて、金碧燦煌人目を眩す。

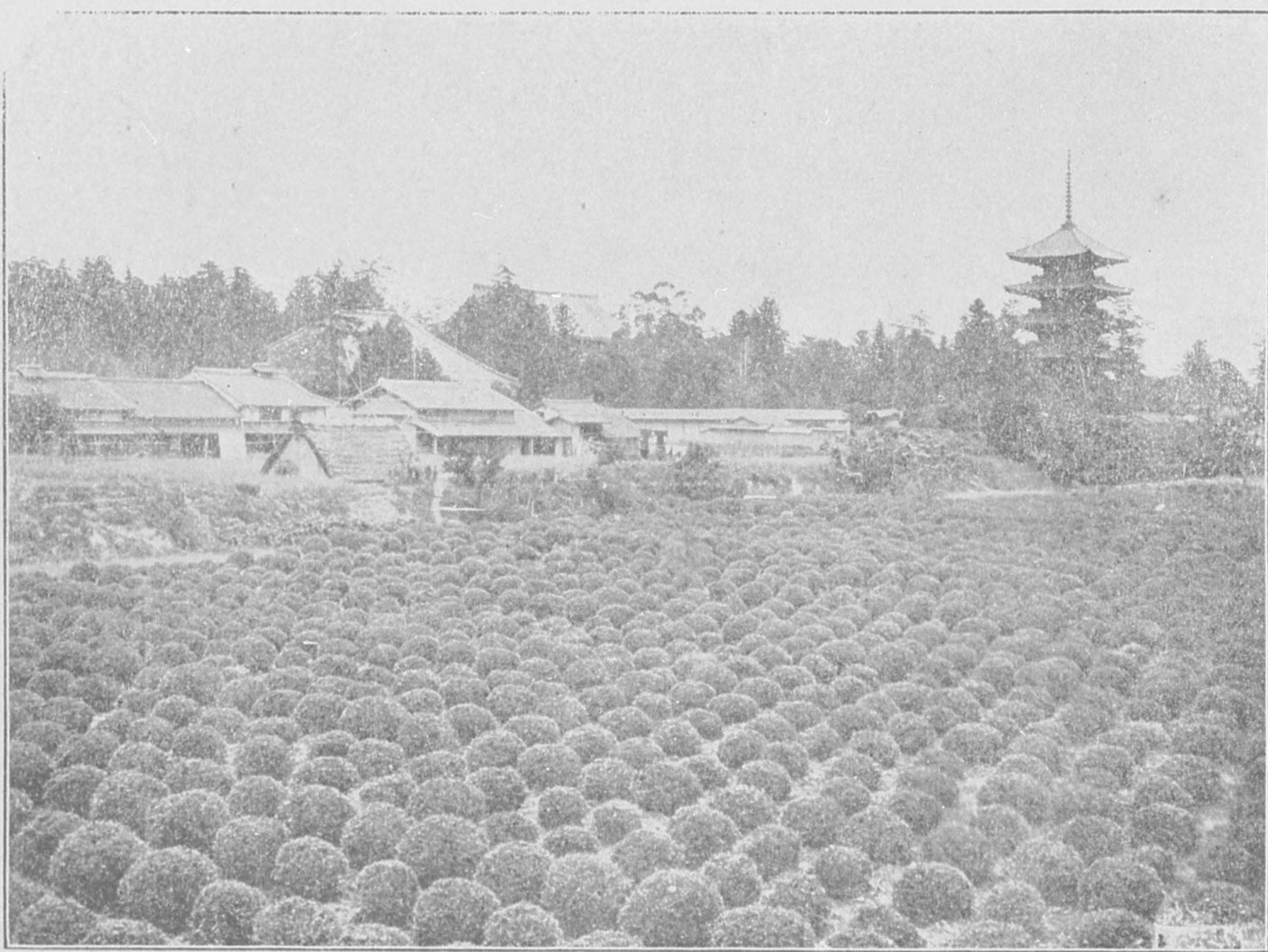
飛雲閣



本派本願寺庭園滴翠園の中にあり、豊公が聚樂第の遺物にして、建築の高妙なる驚くに堪たり。園中十勝あり池水漾々、樹影參差、恰かも仙境に入るが如し。
 九條尙實氏の詩に曰く

閣臨三滴翠園中一聳。欄入三滄浪地上二浮。寫字止時何限興、逍遙無三日不三風流一

東 寺



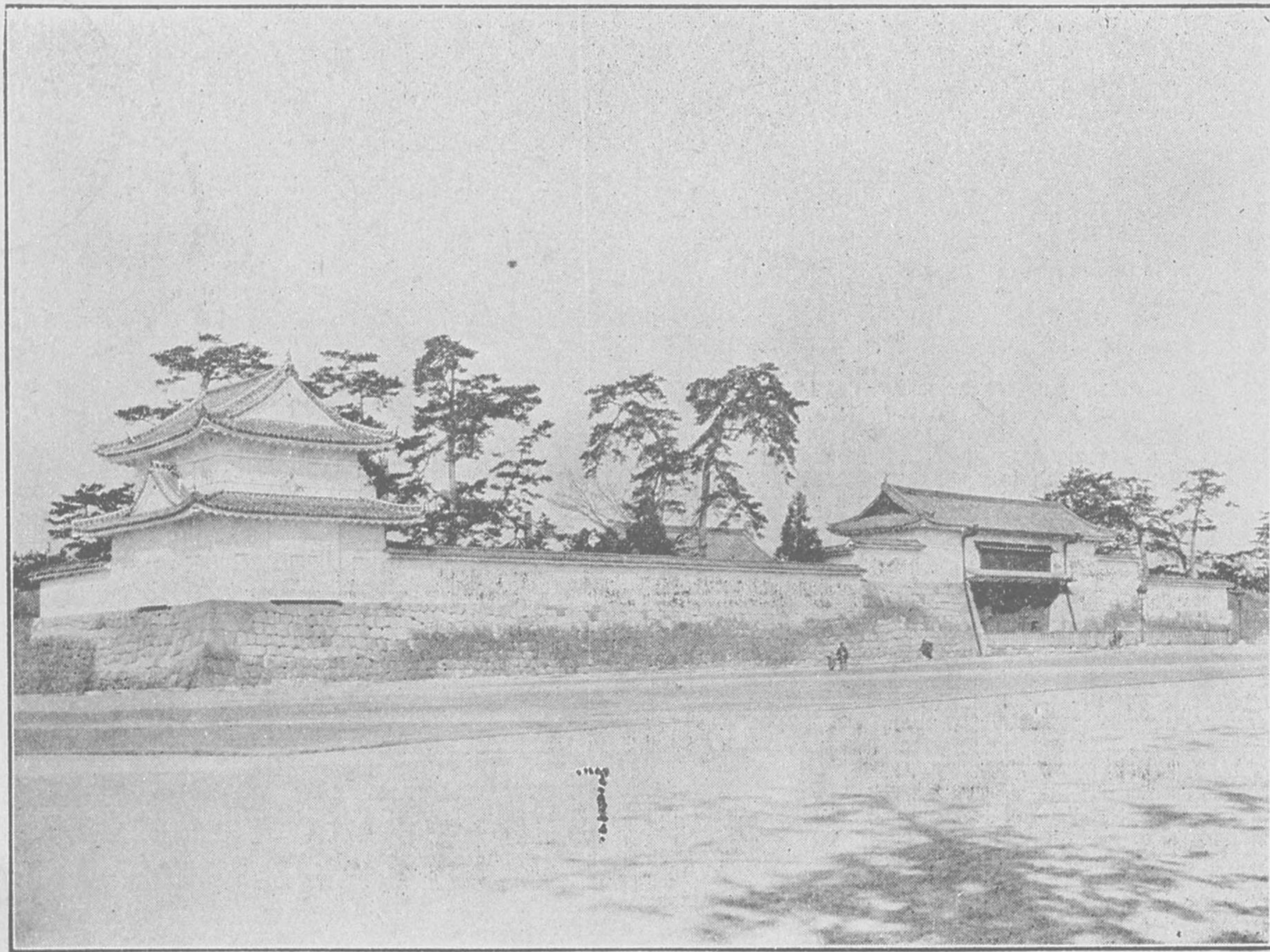
教王護國寺と稱す、延暦十五年桓武天皇朱雀門の東西に兩寺を建設せしが、その後嵯峨天皇弘仁十四年に至り、西寺を守敏に賜ひ、東寺を弘法大師に賜ふ、今の東寺即ち是なり門には南大門、慶賀門等あり。堂には金堂、大師堂等あり。五重塔は金堂の東南に聳ゆ、堂殿宏麗に、老樹鬱茂して風景蒼々なり。毎月二十一日には遠近よりの参詣者群集す。

島 原



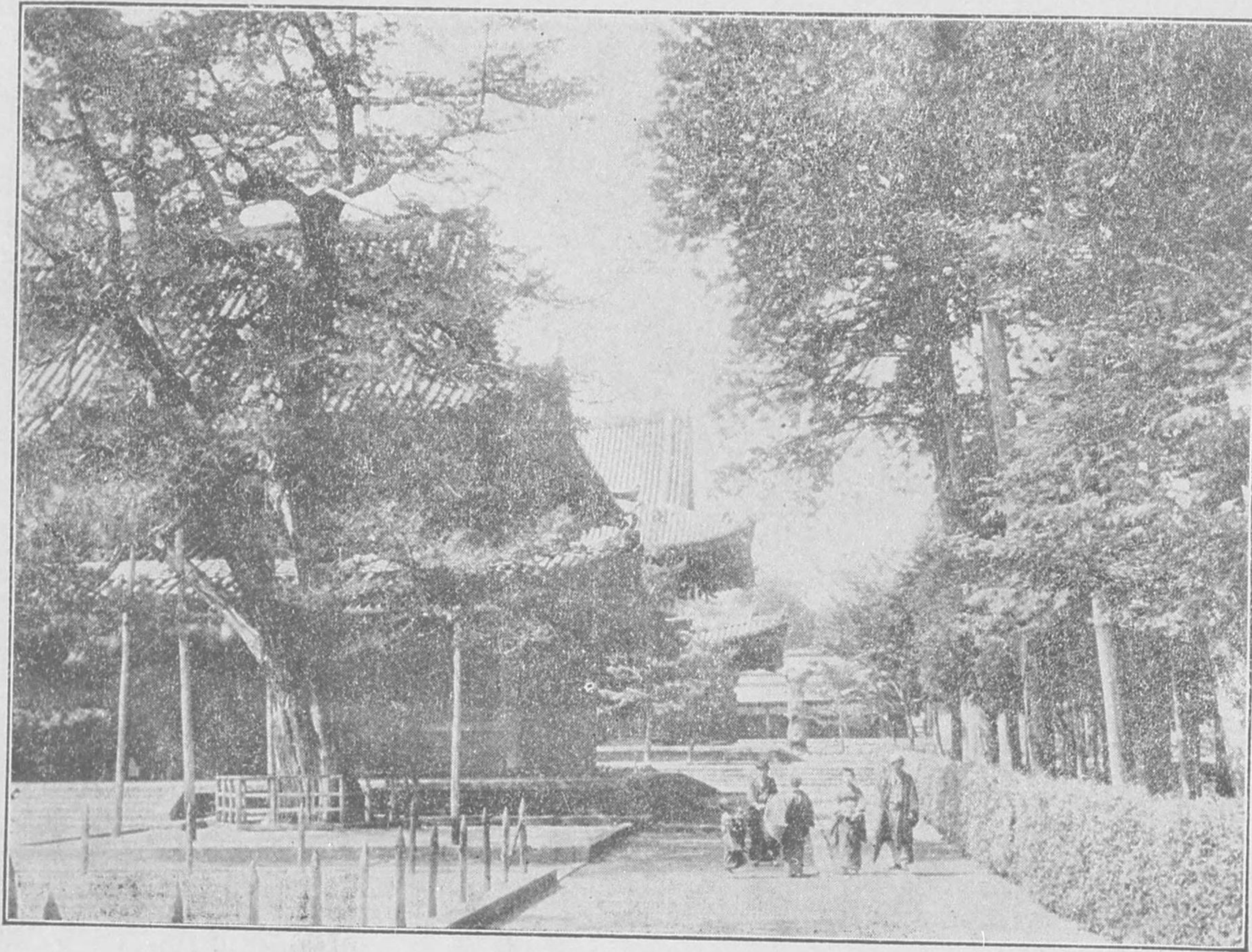
俗に傾城町といひ、四周圍むに壁垣を以てし、別に一廓を構ふ。東門口の柳を出口の柳といふ。往時封建の世には豪富來りて一擲千金の豪遊をなせしが、維新後はやゝ衰微せり。毎年四月二十一日太夫の道中を行ふ、其艶麗繁華なること比類なし。廓中第一の舊屋を角家といふ、二百五十年前の建築にして、樓堂の結構莊飾より、器物に至るまで皆善美を盡せり。

二條離宮



舊二條城にして、慶長年間築造し、徳川家康初めて入城あり。維新前將軍慶喜が大政返上の表を草せしも、明治元年今上天皇の親征の詔を頒ち玉ひしも皆此處にて、明治十七年離宮となりぬ。宮殿宏壯崇嚴にして、彫刻繪畫等皆一時の名工を驅使し、林泉は加茂川の水をひき奇石怪石を點綴せり。

大 德 寺



禪宗臨濟派の大寺なり、開基は大燈國師にて正中元年の創建なり、境内は喬松深
く寺院を鎖し、幽邃の景いふべからず、山門は連歌師宗長の建造にして千利休そ
の樓閣を修補し、己れの木像を置き圖らず罪を豊太閤に得て遂に終を能くせざ
りし。法堂及び佛殿は赤松圓心の建營せし處にて方丈の門は明智光秀の寄進な
り。

平野神社



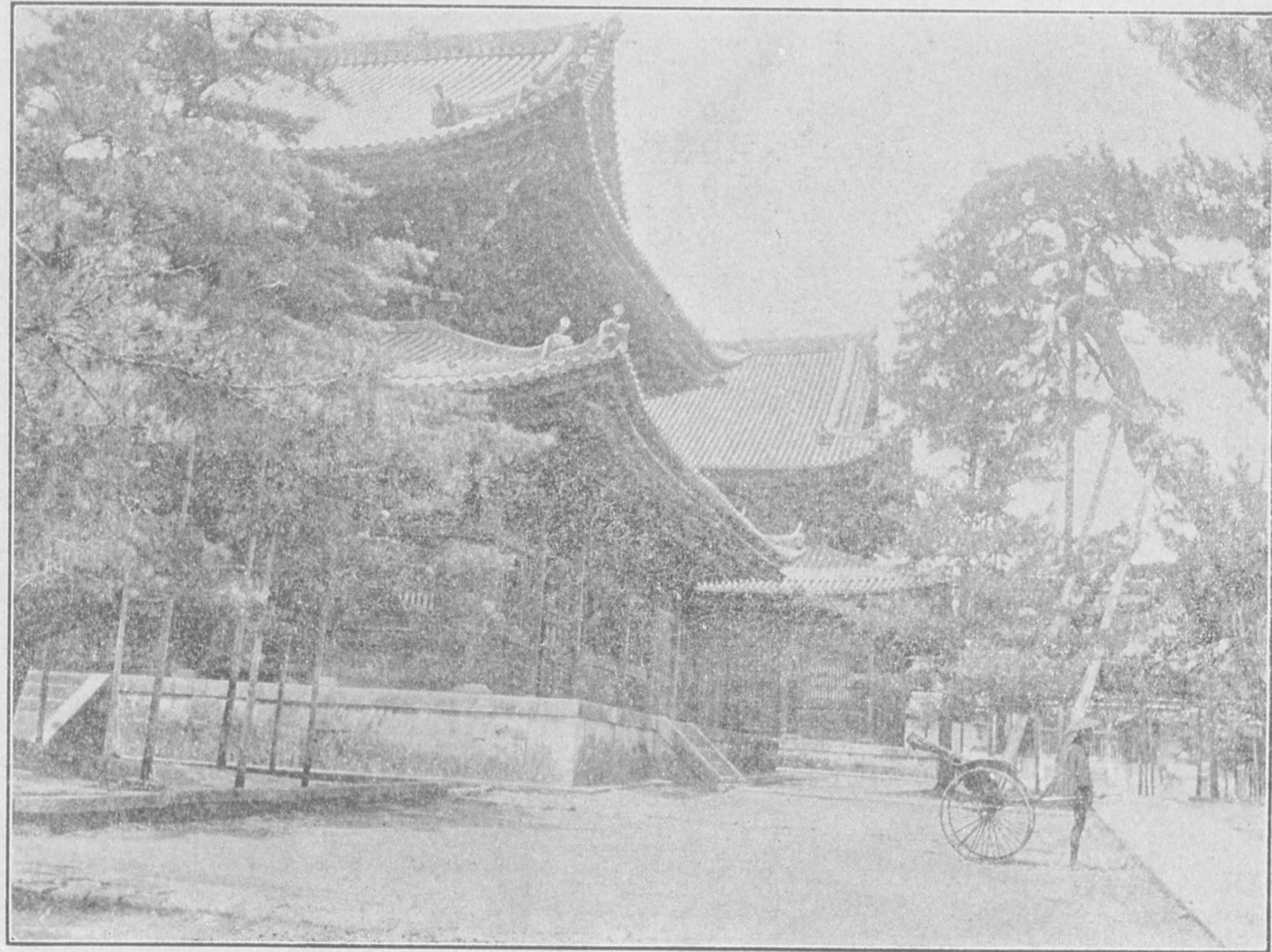
官幣大社なり、本社五棟相並び南なる別殿を縣社といふ、本社拜殿とも巧みに接木を箱合し建築家の模範とする處にして、拜殿楯上に掲ぐる三十六歌仙の額面は、近衛基前の書、海北友徳の畫とし世に名高し、古來境内に多く櫻樹を栽ゑ、花時には士女群集して宴飲し、平野の夜櫻とて世に著はる。

金閣寺



鹿苑寺と號す、足利義滿の山莊にして後ち寺院となる、開基は夢窓國師なり、林泉は廣豁幽麗にして三層の閣あり。即ち金閣にして下層を法水院といひ、中層を潮音洞といひ、上層を究竟頂といふ、天井は三間四方なる楠の一枚板にして、閣の四方には金箔を貼りしも、今は概ね剝落して僅に殘痕を認むるのみ、何人も必らず一覽せざるべからず。

妙心寺



初め清原左大臣夏野の別業なりしが、花園上皇此地の風景を愛し、離宮を營み玉
ひ後伽藍となし、關山國師を開基として正法山妙心寺と名け玉ふ。寺内の一院
玉鳳院は當時上皇の隠栖し玉ひし故跡なり、また萬里小路藤房卿遁世して此寺
に入り授翁と號し、關山國師の法脈を繼ぎたりといふ、又大法院に佐久間象山墓
あり。

(室御)寺和仁



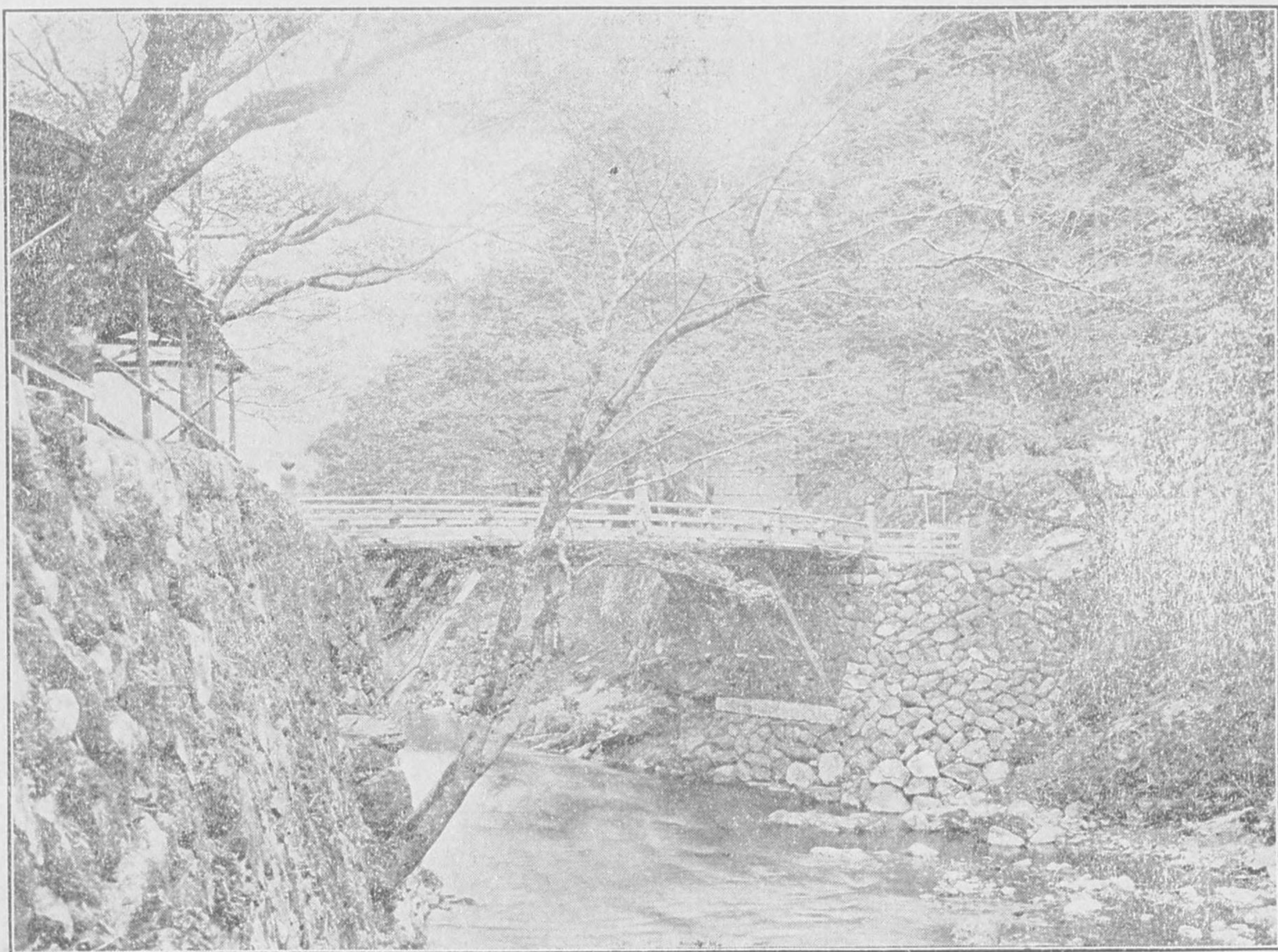
眞言宗の大寺なり、光孝天皇仁和四年の創建にして、宇多天皇御落飾の後宮寺に入り、宮殿を造營し玉ひしより、御室また大内山の稱あり。自來法親王を以て代御繼紹あり、以て維新の際に及べり、境内廣濶にして櫻樹多く、枝幹蟠屈して花は皆重瓣とし、艶麗他に異なり御室の花見とて、古來世に名高し。

寺山高尾拇



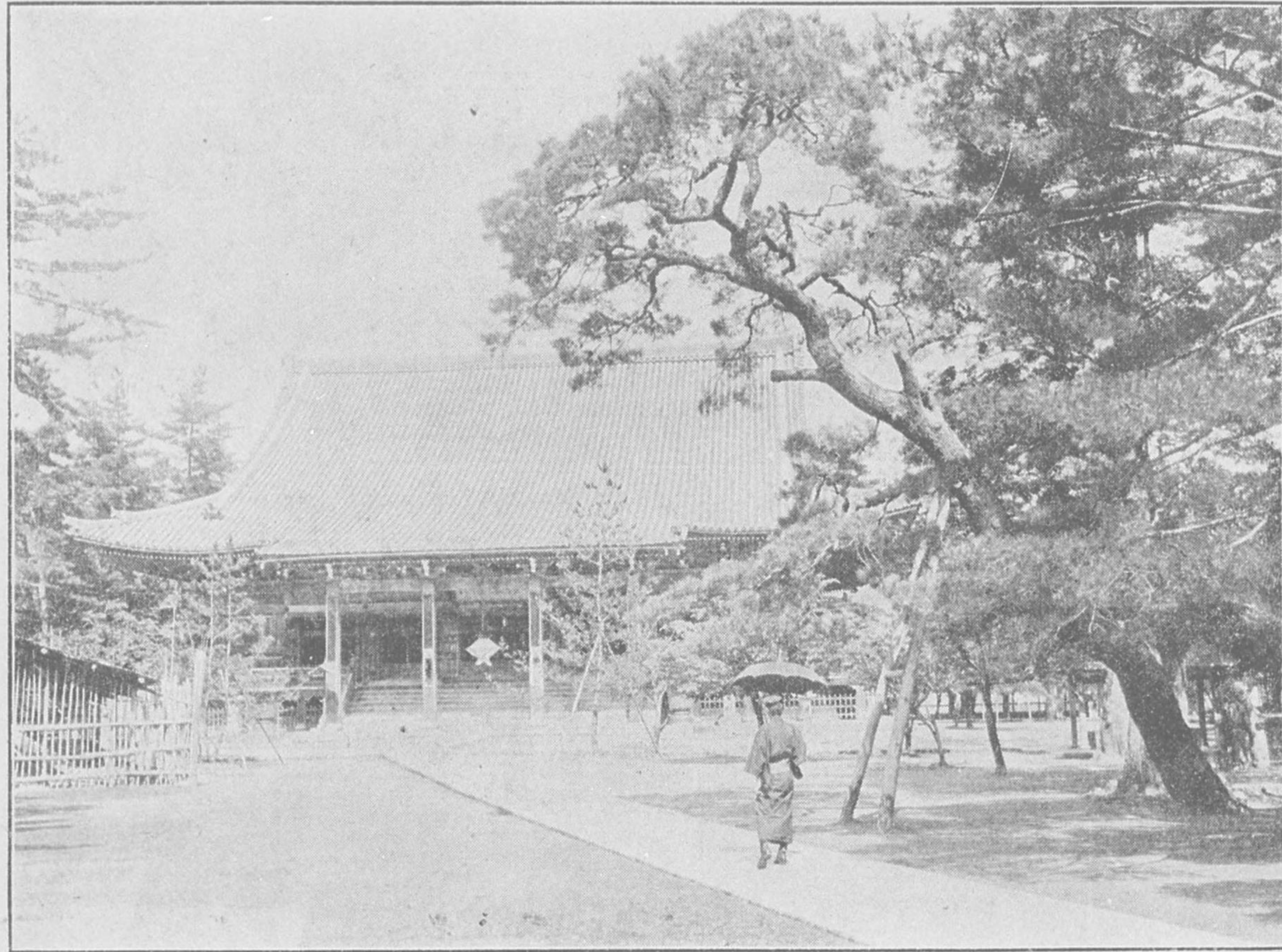
尊意僧正の開基にして舊と天台宗なりしが、明惠上人之中興して華嚴宗となる、本宗明惠上人廟禪堂院等あり、入口なる白雲橋より北は兩岸の楓樹清瀧川の溪流に臨み、深紅淡黄燦然として水を照し、山に映し恰ながら錦繡をかけたる如し、實に絶景といふべし。

高 雄 神 護 寺



和氣清鷹公の草創にして、始め河内國にあり、神願寺と號せしを後此地に移し、
淳和天皇長年中之を弘法大師に賜ひ、神護寺と改稱せり、鐘樓の鐘は日本三絶
といひ、橋廣相の序、菅原是善の銘、藤原敏行の書なり、奥の地藏院は、境内第一
の佳景にして、清瀧川は其下を繞り、兩岸の紅楓は鮮艶燃々んとす、實に紅楓の
大觀なり。

清涼寺



五臺山と號し、俗に嵯峨の釋迦堂といふ、本尊釋迦佛は立像五尺二分釋尊在世の日赤梅檀を以て、毘首羯摩の作りし尊像にして、後支那に渡り一條天皇の時僧裔然宋國より、渡來せしものにして稀世の名像なり。本堂の外、多寶塔、阿彌陀堂藥師堂、經藏等あり、境内廣濶にして櫻樹松樹多く風景頗るよし。

山 嵐

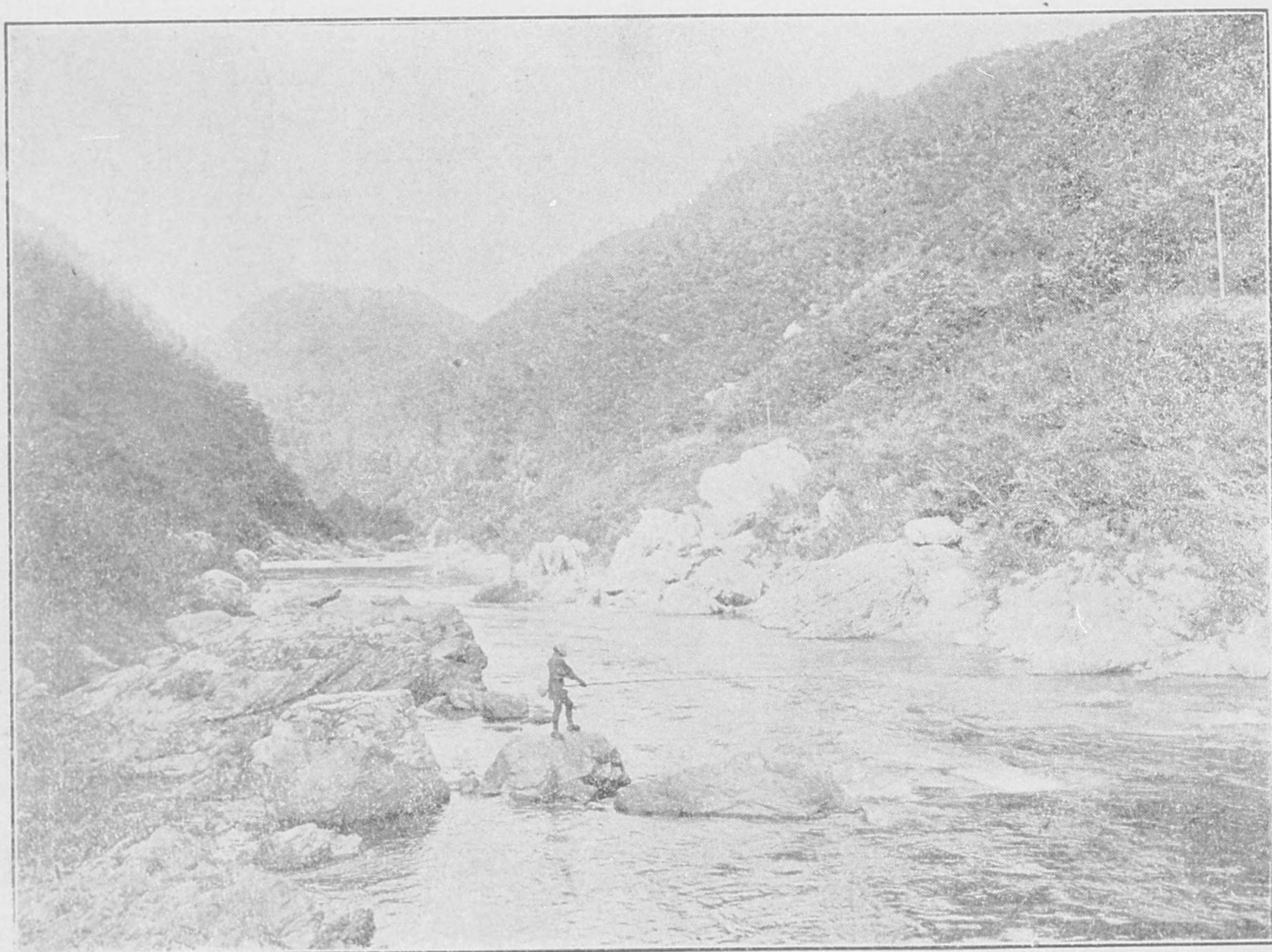


此山の櫻樹は龜山上皇嵯峨の仙洞に在ませし時、大和吉野より移し栽へ玉ひしなりと、螢によく、河鹿によく、三冬の雪景によく、四時一として佳ならざるなく満山櫻楓樹多く、翠松其間に交りて、春秋の眺め云ふべからず。また初夏の新樹によく、京都第一の勝地なり。山下の流を大堰川といひ、川に沿ふて六丁大悲閣あり眺望絶佳なり。

嵐山はもよしのやうつすらん櫻にかゝる瀧の白糸

後宇多院

保津川



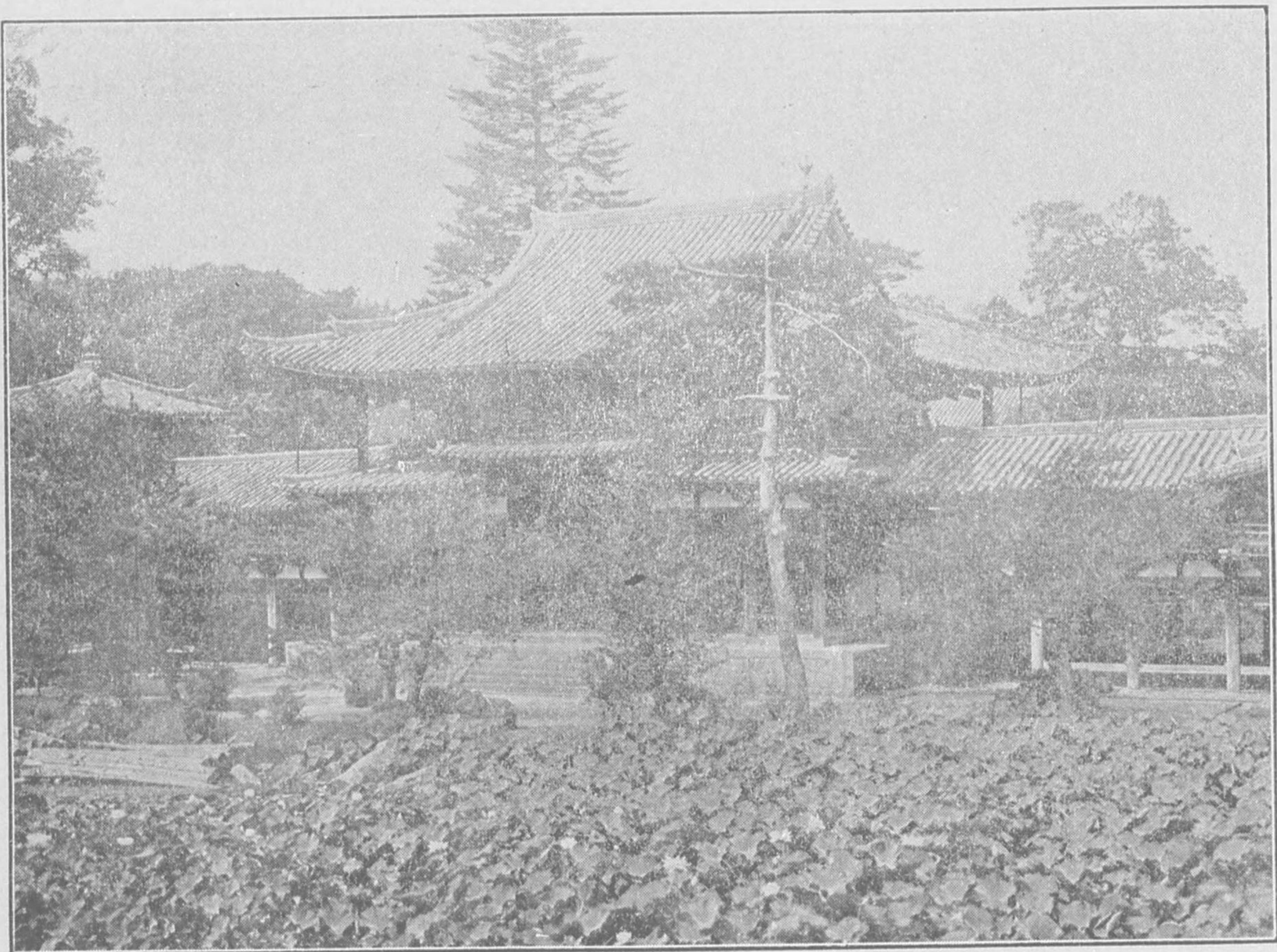
大堰川の上流にして、其源を丹波に發す、慶長年間角倉了意、水路を開鑿し遂に舟楫の便を開けり、其急流奔激する處、碧潭藍を染めなし、實に小赤壁の稱あり、水中に突出せる岩石を水夫は棹もて、之に當り瞬間舵を轉し僅に衝突を免る、其功妙熟達の技實に壯絶悲絶感するに堪たり、嵐山まで航程四里を僅一時間にて達す、常に舟下する内外人いと多し。

松尾神社



官幣大社にして、祭神大山咋命市杵島姫命を祀る、聖武天皇天平中初て大社に列せられ、延暦中京都守護神となし玉ふ、洛西第一の大社なり。又世に酒造家の神と稱し、醸酒家は尤も尊信す、境内は老松古杉鬱々とし、神殿も焜々として、神寂たる靈境なり社頭は櫻楓樹多し。

平 等 院



當寺は其初め河原左大臣の別業なりしが、薨去の後陽成宇多朱雀三帝の離宮となり、其後之を寺院となし平等院と稱せり。本堂は有名なる鳳凰堂(國寶)にして、全體の結構を鳳凰に象どり、更に屋上に金銅を以て造れる雌雄の鳳凰を置き天風一たび吹けば泛として舞ふ。實に八百餘年前の古建築なり、扇の芝は其の傍にあり、源三位賴政が自殺の處なりといふ。

宇治茶摘



宇治は京都を距ること四里十一町奈良鐵道の停車場あり、前面は宇治川の清流に臨み、朝日山の晴翠に對し、四時の風光佳ならざるなく、殊に新緑の候螢火の節には來遊するもの多し。此邊は茶の名所にして五月の候、村女の歌を謡ひながら茶を摘むさま頗る雅趣あり、
木いづれて茶摘もきくやほととぎす

はせを

第五回内國
勸業博覽會
審査總長大鳥圭介君題辭
京都出品協會長内貴甚二郎君序文
黑田天外君編述

京みやげ 工藝と名勝

菊判形頗美本全一冊名勝寫真數
五十餘景挿入
定價金參拾參錢 郵稅六錢

本書は工藝地としての京都、名勝地としての京都を、編者が八面玲瓏の才筆によりて析解されたるものにして、經濟上乃至は地理歷史上より京都を談らんとするの士は、必ず一本を購はざるべからざるのみならず、家土産として父老を慰むるには、好調の逸品なり、詳細を談るは本書の一讀に如かず、乞ふ速かに求められよ

發行所

京都市東洞院
三條上ル

村上勘兵衛

發行所

京都市寺町通
姉小路上ル

杉本甚之介

の京都を、編者が八面玲瓏の才筆によりて
析解されたるものにして、經濟上乃至は地
理歴史上より京都を談らんとするの士は、
必ず一本を購はざるべからざるのみなら
ず、家土産として父老を慰むるには、好調の
逸品なり、詳細を談るは本書の一讀に如か
ず、乞ふ速かに求められよ

發行所

京都市東洞院
三條上ル

村上勘兵衛

發行所

京都市寺町通
姉小路上ル

杉本甚之介

94
110

終